

「和鉄の道・Iron Road」から見た日本誕生前夜の北近江・若狭

北近江・若狭が輝いた時代

1. 大和王権の成立前夜 大陸・朝鮮半島交易を担った玄界灘の海人族

近江安曇川の地名の元となった海人族「安曇族」

2. 大陸・朝鮮半島や東国への大和の玄関口 若狭・北近江の和鉄の道を訪ねる

2.1. 安曇川の左岸 琵琶湖を見晴らす饗庭野丘陵

多量の鉄素材を出土した熊野本弥生集落遺跡と古墳時代前期の古墳群熊野本古墳群

2.2. 5世紀 若狭国 初期前方後円墳の王墓群 脇袋古墳群

丹後にとってかわった大和の玄関口 若狭/北近江

2.3. 若狭と大和そして 朝鮮半島交流との深い関係を示す

若狭 遠敷川(おにゅうがわ)「鶉の瀬の水送り」

3. 近江は鉄の国 古代近江で育てられた量産型たたら製鉄

鉄を必要とする拠点での古代製鉄コンビナートのベースを作った

● わたしのlife work 「和鉄の道・Iron Road たたら製鉄遺跡探訪 スライド」 約15分

弥生末期から古代奈良時代にかけて 大陸・朝鮮半島との最大の交易品は「鉄」

その鉄を日本に持ち込んだ航海術にたけた海人族・渡来人たち。

その鉄が若狭・北近江を通して、日本各地に広がり、数々のドラマを生み、素晴らしい景色を作っていた。

自分たちの町の祖先たちが それに大きな役割を果たしていたと考えてみてください。

そんな「鉄」の景色のスライド集をお見せしたい。



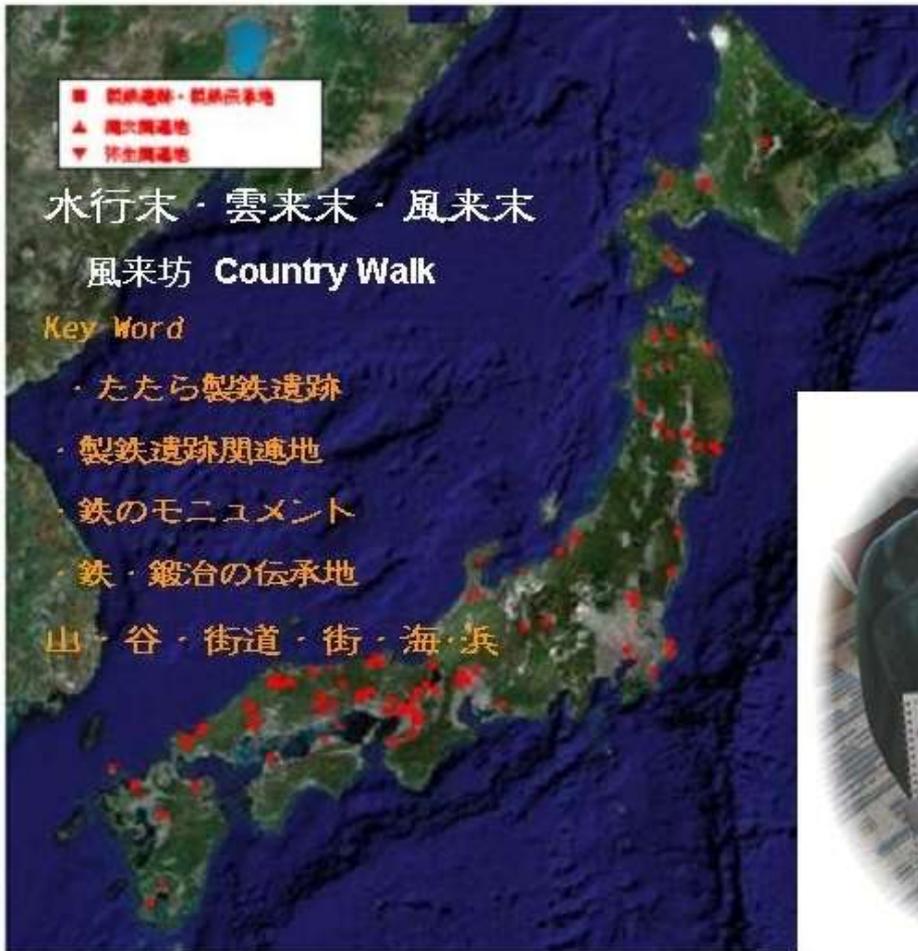
鉄鋼メーカーに勤めた鉄鋼材料・溶接のエンジニア まったくのど素人の勉強です

日本各地の製鉄遺跡・製鉄関連遺跡や「鉄」の伝承を訪ねてCountry Walkを楽しんでいます

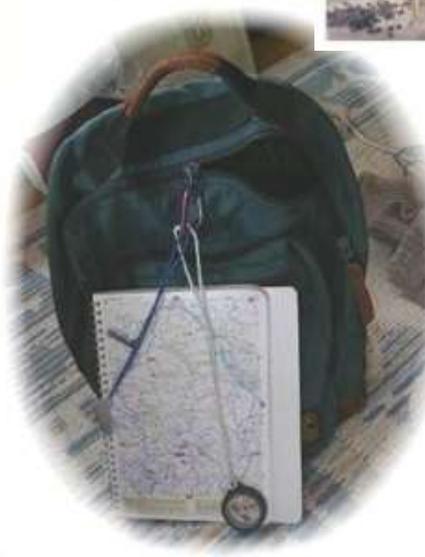
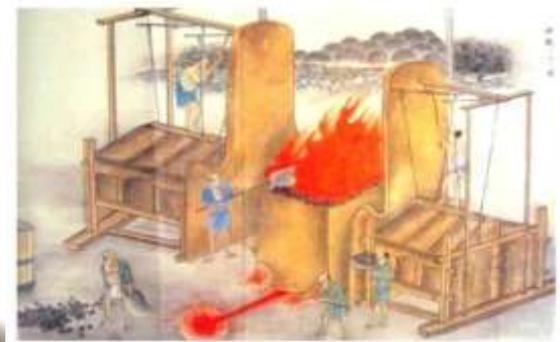
和鉄の道・Iron Road

縄文人は山を望むすばらしい景色の森に村を作った
製鉄集団の住む街道・谷筋・浜にも素晴らしいドラマと四季がある

和鉄の道 Iron Road 製鉄遺跡・製鉄関連伝承地 探訪マップ



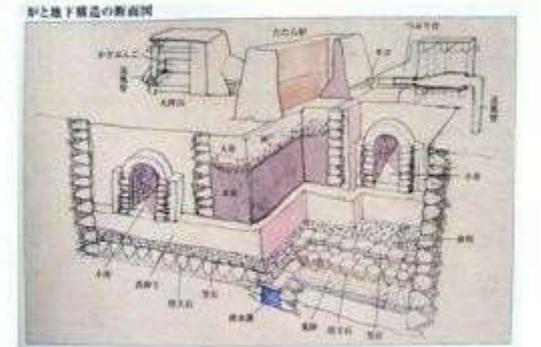
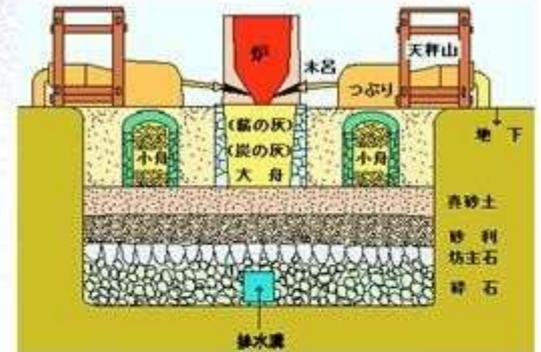
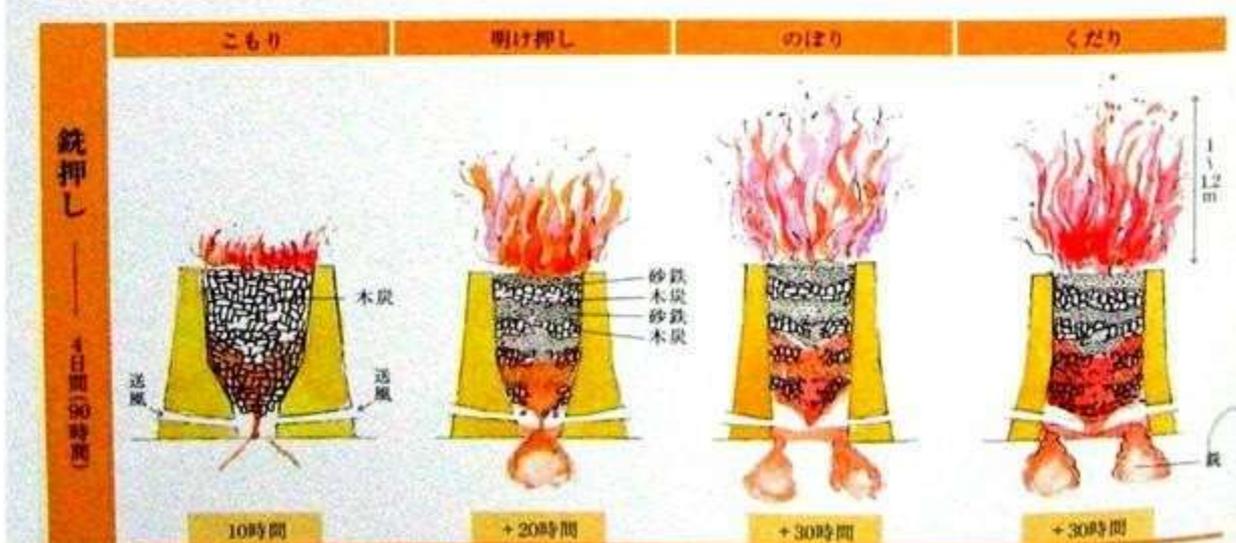
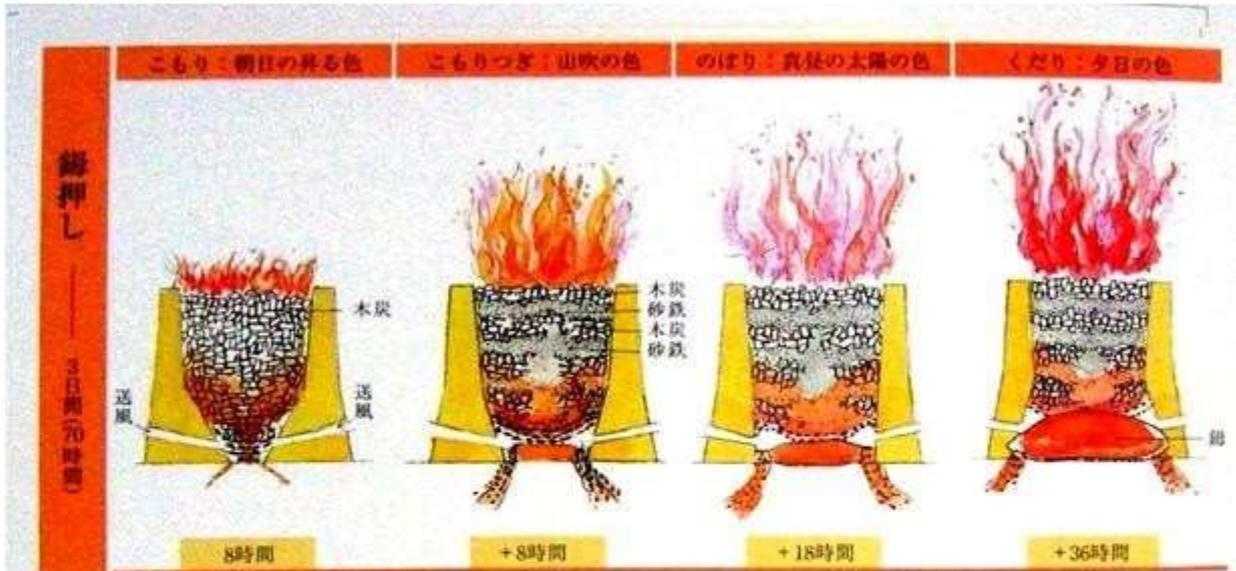
和鉄の道を訪ねて歩いた 北近江・若狭について 私の見聞記をお話します



日本古来の製鉄技術 「たたら製鉄」をご存知でしょうか……

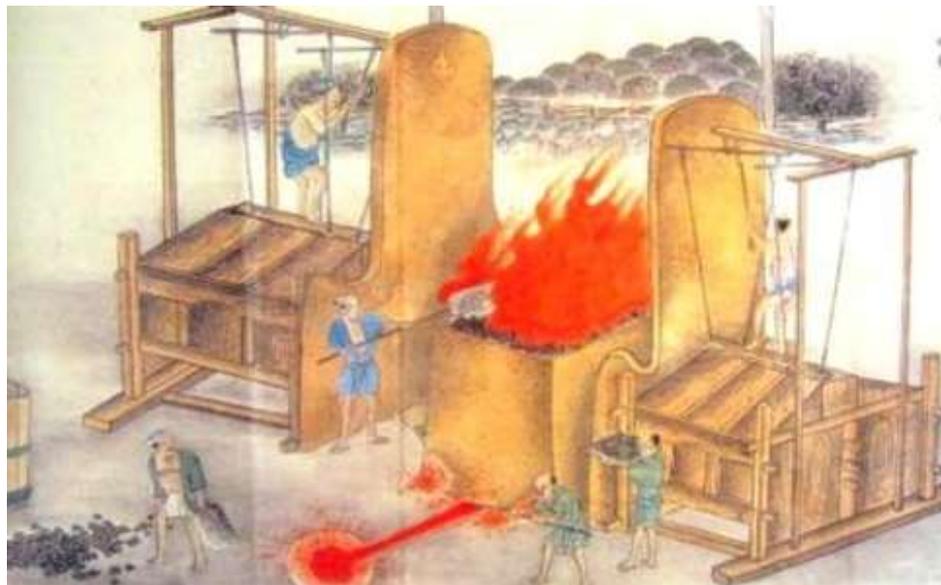
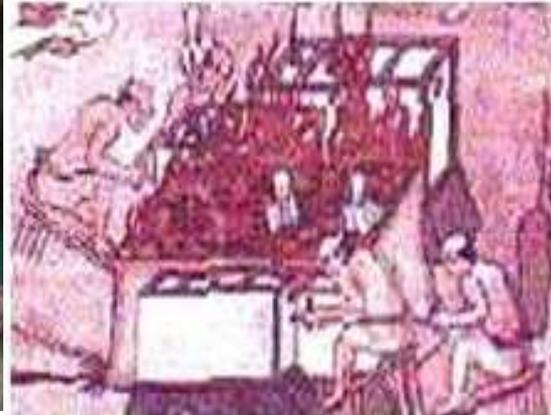


たたら製鉄法 溶かさずに塊のまま強靱な「鋼」を作る日本古来の製鉄法



日本古来の製鉄技術「たたら製鉄」をご存知でしょうか……

鉄の不思議 鉄の謎 また 日本各地に数々の伝承が残っている



塊錬鉄 製鉄法（直接製鉄法）

鉄鉱石・砂鉄などを比較的低い温度で加熱。
溶かさずに半熔融状態のまま還元して 海綿状の鉄や鉄塊を得る。

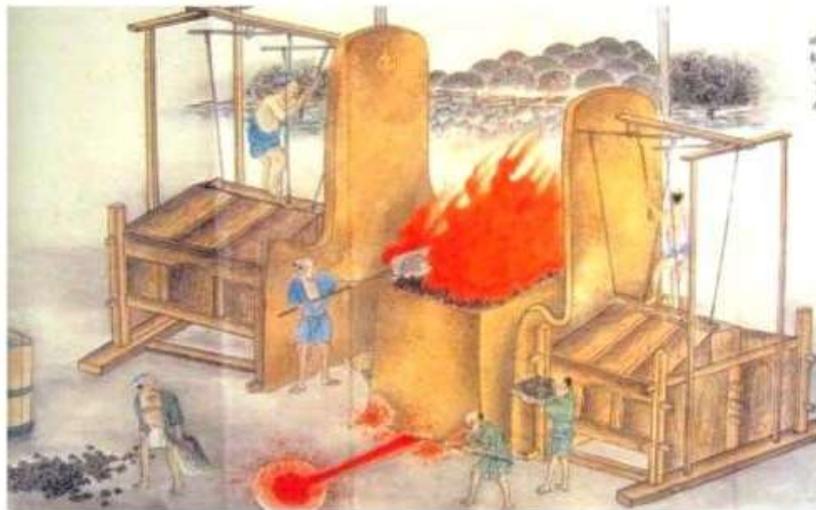
ここの塊を再度加熱精錬・鍛造。不純物を搾り出すとともに 炭素量も調整して、強靱な鋼を得る。この鉄素材を塊錬鉄という。

「たたら」製鉄・ヒッタイトの初期製鉄法もこれである

何処へ行っても だれとでも すぐ話ができる「鉄」

「たたら」を訪ねると 素晴らしい日本の景色 山・川・海 そして文化に出会えます

日本各地の製鉄遺跡・製鉄関連遺跡や「鉄」の伝承を訪ねてCountry Walkを楽しんでいます



たたら 製鉄の不思議……

日本に鉄が伝来したのは弥生時代の初め

それから日本で製鉄が始まるまで、800～900年後の6世紀

なぜ こんなに時間がかかったのか……

必死に朝鮮半島の鉄素材を手に入れようとした倭国

そして 日本誕生に大きくかかわった鉄・各地に数々の伝承が乗る

鉄から日本の歴史が見えてくる

この製鉄技術は当時 東アジア・朝鮮半島・中国何処にもない技術

紀元前10世紀頃 ヒッタイトが始めた製鉄技術そのものでした

それが、明治時代まで続く

そのたたら製鉄でできた鉄は今も現代の製鉄法では再現できない

鉄は錆びるものの代名詞 でも 古代の鉄は錆びないのだろうか……

現代の製造法ではできない「たたら鉄」

◎ 法隆寺の解体修理には 古代たたら製鉄で復元された釘がつかわれた

◎ 刀匠は今もたたら製鉄の「玉鋼」を素材に刀を打つ

塊煉鉄 製鉄法 (直接製鉄法)

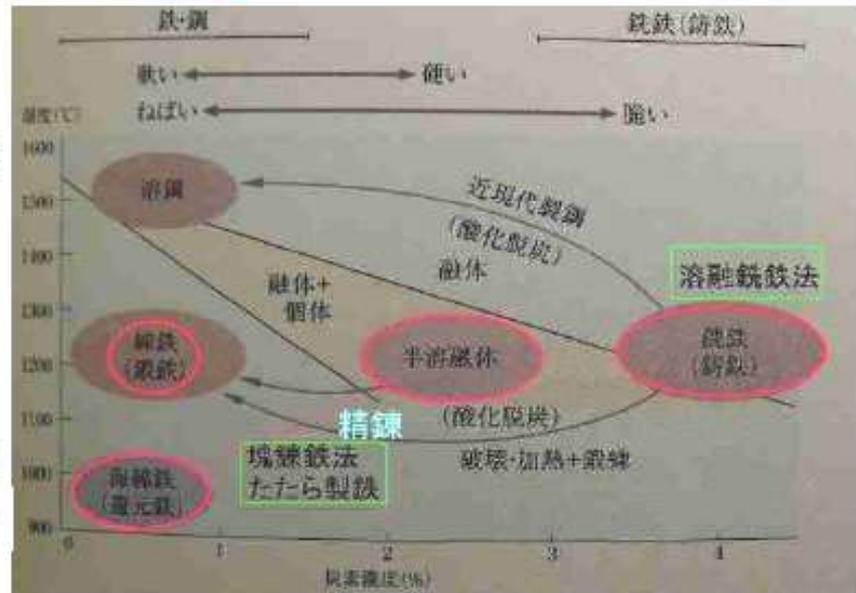
鉄鉱石・砂鉄などを比較的低い温度で加熱。溶かさずに半熔融状態のまま還元して 海綿状の鉄や鉄塊を得る。ここの塊を再度加熱精錬・鍛造。不純物を搾り出すとともに 炭素量も調整して、強靱な鋼を得る。この鉄素材を塊煉鉄という。

「たたら」製鉄・ヒッタイトの初期製鉄法もこれである

溶融鉄鉄 製鉄法 (間接製鉄法)

鉄鉱石を高温に加熱して、鉱石を溶融しながら還元して鉄を得る。この時 高温のため、鉄は大量の炭素を吸って、脆い銑鉄となる。

この銑鉄を再度加熱溶融して、銑鉄中の炭素を燃やして、銑鉄中の炭素を燃やして 炭素調整して強靱な鋼を得る 現代の製鉄法 ならびに 中国では古代からこの方法が発展した



中国漢代後半には既に溶融鉄鉄から鋼を作る間接製鉄法が実用されていた

日本各地に残る数々の製鉄関連伝承

「鉄」が文明を発展させ、平和で豊かな暮らしを展開させた半面 その力の大きさゆえ、戦争・差別を持ち込んだのか??

- 鬼伝説の中に たたら衆・鬼がいた郷土を誇る「東北」 畿内などとは異なる意識がある

鬼が住む山 奥羽山脈の峰々を誇りに思うと堂々と市民憲章に掲げる北上市。そして 岩手県民あがての寄付で作られた蝦夷の棟梁のアニメ映画「アテルイ」・高橋克彦 第34回吉川英治文学賞『火怨』

中央を流れる北上川の西に奥羽山脈 東に北上山地 両方に険しい仙人峠があり、そのどちらでも鉄を産する。

(釜石の餅鉄 大槌町小林家の製鉄絵巻 釜石から久慈へ点々と製鉄遺跡 砂鉄海岸が続く)

また、鬼の住む山 青森岩木山(巖鬼山) 山から北に流れる川には砂鉄があり、空沢製鉄遺跡など古代の製鉄遺跡があり、

鬼と刀鍛冶の伝承が残る十腰内 鬼の里として弘前ねぶたを運行する「鬼沢」 そこには鉄の農耕具が奉納される鬼神社がある。

1. 鉄の技術を持ってやってきた集団には「開拓神」として数多くの伝承が日本各地に残る

弥彦の神 三輪山の物部主命・オオナムチ・スサノオ 但馬の天日槍 物部氏とニイハヤギ

2. 後世 たたら製鉄の砂鉄採取のための山の切り崩が流域河口部に豊かな平野部を作った

太田川と広島 揖保川と赤穂 斐伊川と出雲

3. 「鉄」が戦争を持ち込んだのか ?? 鬼の伝承・弥生の環濠集落・卑弥呼・大和王権の絆は鉄の支配力??

「鬼」の名が残る山や鬼の住む山々が日本各地に鬼の伝承と共に残っている

大江山・伯耆大山・英彦山・東北日高見の鬼・蝦夷 アテルイ 鬼面山・巖鬼山・鬼ヶ城・鬼岳・鬼壁等々

ユーラシア大陸の西の端で生まれた人工鉄の製造法がユーラシア大陸を横断して 日本に伝わった。
ユーラシア大陸を横断する「絹の道 シルクロード」の前に「鉄の道 Iron Road」があり、そこでは 数々のドラマが繰り広げられ、東へ伝わってきた。
この鉄の道は 日本国内にはいっても 同じく 数々のドラマを展開してきた。
「ユーラシア大陸の西端から日本へ
「鉄の道」で繰り広げられた数々のドラマ」「日本誕生に間違いなくかかわった鉄」を紐解いてみたいと。」

「鉄」の話を持ち出すだけで、必ずと言っていいほど どこでも 話が弾むのが 面白くて もう かれこれ 10数年続けています。
ただ 日本に散らばる製鉄遺跡を訪ね、其処にたたずむだけの「風来坊の Country Walk」ですが、素晴らしい日本の原風景・四季に出会える
素晴らしい日本の原風景・四季に出会えるとともに、「たたら」製鉄・「鉄の道」が見せる顔には、現代の知恵に通ずるものが数多くあると。
鉄の見せる表情 まばゆい「閃光」とくろがねの「肌光」 いまも こんな美しいものはないと思っています。

2008.4.23. Mutsu NMakanishi

北近江・若狭にも そんな鉄の痕跡 和鉄の道を訪ねて 何度が訪ねました
鉄の作った風景の話はあとで スライドでお見せして、 本題の話に……

弥生時代の終末期 卑弥呼の時代

また、大陸・朝鮮半島では戦乱の時代に

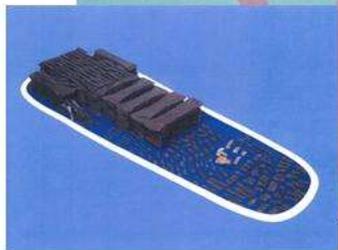
朝鮮半島の鉄が日本海交流の中心に

戦乱を逃れた多数の渡来人が文化・技術を伝える

大和の大陸・朝鮮半島への玄関口として 丹後・若狭が重要拠点

この大陸・朝鮮半島との交流を支えたのは誰か?? ⇔ 玄海灘の海人族の存在

和鉄の道を訪ねて歩いた北近江・若狭について 私の見聞をお話します



熊野本弥生遺跡・熊野本古墳群

鉄素材出土の集落遺跡
初期の前方後方墳 東海とのつながり
3世紀の前方後円墳群

新旭駅

田中古墳群 5.6世紀

田中王塚古墳
「彦主人王」(ひこぬしおう)の墓



安曇川駅

三尾里

● 鴨稻荷山遺跡
朝鮮系の副葬品

大和との関係が深い前方後円墳から
新羅系の数々の副葬品が出土



鴨稻荷山古墳 石棺からの出土副葬品展示 歴史民俗資料館にて 2005. 1. 14.

北近江 安曇川 鴨郷 鴨稻荷山古墳

6世紀前半の前方後円墳 この地の豪族三尾氏の墳墓

琵琶湖西北の湖岸 安曇川の北側に広がる新旭町熊野本周辺から饗庭野丘陵地 2008.9.1.
丘陵地中央下段(○印)の丘が熊野本弥生遺跡と熊野本古墳群



古代 近江には数多くの渡来人がやってきた

大和の日本海側窓口遠敷の湊(小浜)の存在

小浜

誰がこの人たちを運び、
この近江で何をしたのだろうか...

伊吹

安曇川 ●

大和



北近江・若狭の話をする前に 私の視点 安曇川

日本各地と大陸・朝鮮半島を結んだ海人族

安曇族の関連地

筑前国糟屋郡安曇郷(福岡県)、伯耆国会見郡安曇郷(鳥取県)、美濃国厚見郡厚見郷(岐阜県)、三河国渥美郡渥美郷(愛知県)・・・。

「アヅミは、阿曇・安曇・厚見・厚海・渥美・阿積などと表記され、足跡は瀬戸内海を經由し阿波、淡路、播磨、摂津、河内、近江などに及び、琵琶湖西側には安曇川の地名を残している。

安曇川・

各地で住み着いた安曇族の謎？

安曇族を追うロマン

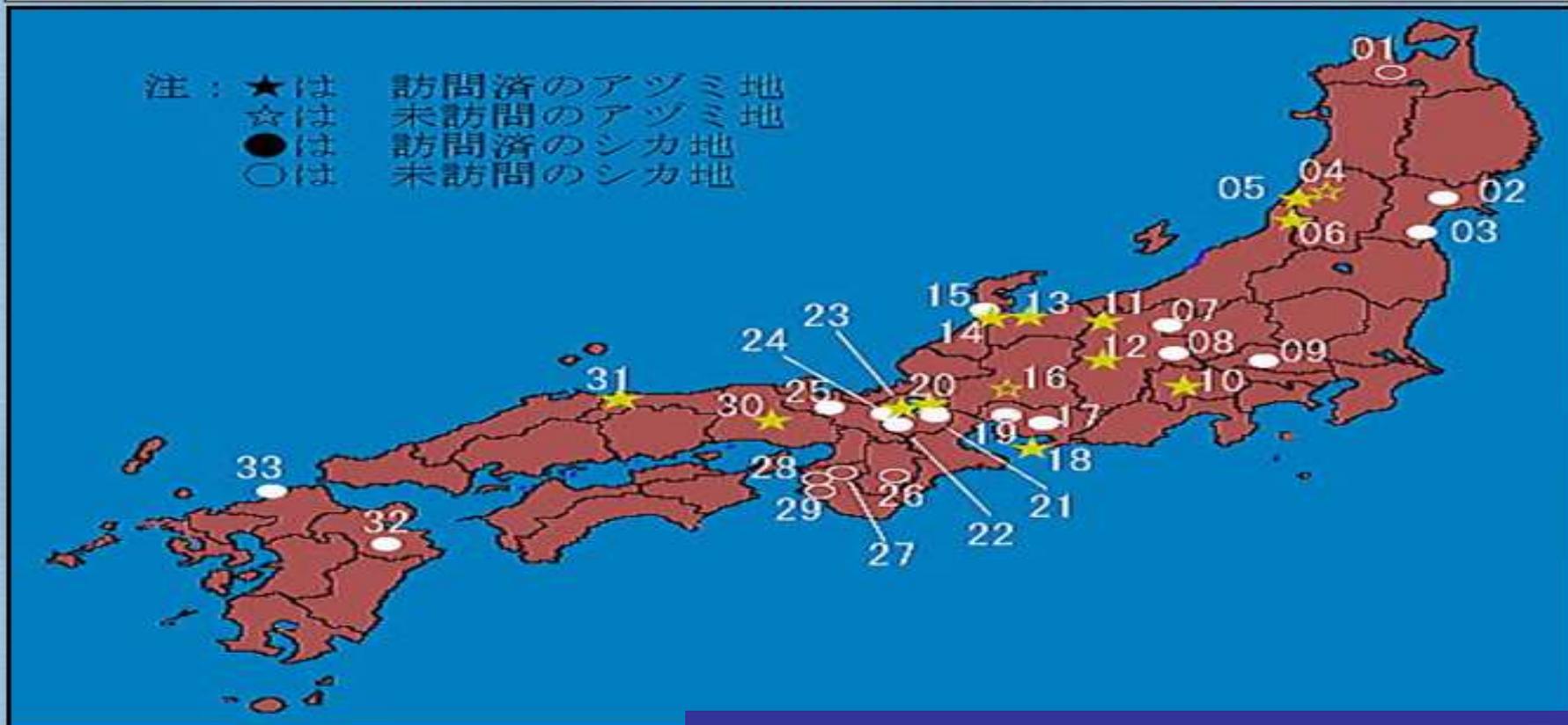
日本各地で 何のために？ 何をしたのだろうか？



「アツミ」「シガ」の音で調べられた安曇族関連地 アツミ地域は青色字 シカ地域は茶色字

<http://www2.odn.ne.jp/~nov.hechima/suiri.html>より

- | | | |
|---------------------|----------------|-------------------|
| ○01 森県南津軽郡平賀町志賀坊 | ★12 長野県南-北安曇郡 | ★23 滋賀県安曇川 |
| ●02 宮城県遠田郡小牛田町志賀町 | ★13 富山市安住町 | ●24 滋賀県志賀町 |
| ●03 宮城県岩沼市志賀 | ★14 石川県志賀町安津見 | ●24 京都府綾部市志賀郷 |
| ☆04 山形県飽海郡 | ●15 石川県志賀町 | ●26 奈良県吉野町志賀 |
| ★05 山形県温海町 | ☆16 岐阜市厚見 | ●27 和歌山県かつらぎ町志賀 |
| ★06 新潟県関川村安角 | ●17 愛知県豊田市志賀 | ●28 和歌山県野上町志賀野小字狭 |
| ●07 長野県志賀高原 | ★18 愛知県渥美町 | ●29 和歌山県日高町志賀 |
| ●08 長野県佐久市志賀 | ●19 名古屋市志賀地域 | ★30 兵庫県宍粟郡一宮町安積 |
| ●09 埼玉県嵐山町志賀 | ★20 滋賀県高月町東阿閉 | ★31 米子市上-下安曇 |
| ★10 山梨県富士吉田市大-小明見 | ●21 滋賀県山東町志賀谷 | ●32 大分県緒方町志賀 |
| ★11 長野県白馬村～糸魚川市(姫川) | ●22 大津市滋賀甲-南志賀 | ●33 福岡市東区志賀島 |



日本各地と大陸・朝鮮半島を結んだ海人族

安曇族の関連地

筑前国糟屋郡安曇郷(福岡県)、伯耆国会見郡安曇郷(鳥取県)、美濃国厚見郡厚見郷(岐阜県)、三河国渥美郡渥美郷(愛知県)・・・。

「アヅミは、阿曇・安曇・厚見・厚海・渥美・阿積などと表記され、足跡は瀬戸内海を經由し阿波、淡路、播磨、摂津、河内、近江などに及び、琵琶湖西側には安曇川の地名を残している。

安曇川・

各地で住み着いた安曇族の謎？

安曇族を追うロマン

日本各地で 何のために？ 何をしたのだろうか？

鉄をキーワードに古代の若狭・近江を眺める

「アヅミ」「シガ」の音で調べられた安曇族関連地 アヅミ地は青色★ シガ地は黄色☆
<http://www2.odn.ne.jp/nov.hechima/suiri.html>より

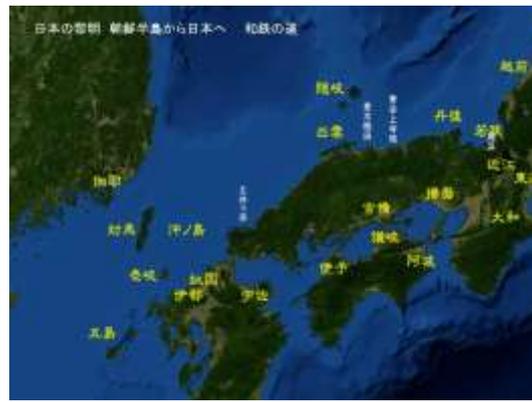
- | | | |
|---------------------|----------------|-------------------|
| ●01 香川県津野郡千賀町志賀坊 | ★12 長野県南・北安曇郡 | ★23 滋賀県安曇川 |
| ●02 宮城県遠田郡小牛田町志賀町 | ★13 富山市安住町 | ●24 滋賀県志賀町 |
| ●03 宮城県岩沼市志賀 | ★14 石川県志賀町安津見 | ●25 京都府綾部市志賀郷 |
| ★04 山形県飽海郡 | ●15 石川県志賀町 | ●26 奈良県古野町志賀 |
| ★05 山形県湯浅町 | ★16 岐阜市厚見 | ●27 和歌山県かつらぎ町志賀 |
| ★06 新潟県関川村安角 | ●17 愛知県豊田市長志賀 | ●28 和歌山県野上町志賀野小字地 |
| ●07 長野県志賀高原 | ★18 愛知県渥美町 | ●29 和歌山県日高町志賀 |
| ●08 長野県佐久市長志賀 | ●19 名古屋市長志賀東城 | ★30 兵庫県宍粟郡一宮町安積 |
| ●09 埼玉県嵐山町志賀 | ★20 滋賀県高月町東阿閉 | ★31 米子市上・下安曇 |
| ★10 山梨県富士吉田市大・小見 | ●21 滋賀県山東町志賀谷 | ●32 大分県緒方町志賀 |
| ★11 長野県白馬村～糸魚川市(堀川) | ●22 大津市志賀里・南志賀 | ●33 福岡市東区志賀島 |



日本黎明の時代の日本海交流

- ◎ 縄文時代から 日本海沿岸では相互に活発な交流・交易がおこなわれた
翡翠・漆・黒曜石・漆ほか
- ◎ 弥生時代から古墳時代には北部九州・朝鮮半島・大陸を含む一つの交易圏
数多くの文物が伝来し、日本各地に伝播して行った
魏志倭人伝他 中国史書に大陸と倭の交流が記載された時代へ
鉄・穀物・勾玉・織物ほか
- ◎ 弥生末期から古墳時代 朝鮮半島・中国は戦乱の時代 数多くの渡来人が
何度も海を渡って日本にやってきた

これら大陸・朝鮮半島と日本各地を結ぶ航海術にたけた人々
北部九州を拠点とする海人族の存在



「和鉄の道・Iron Road」から見た日本誕生前夜の北近江・若狭

北近江・若狭が輝いた時代

1. 大和王権の成立前夜 大陸・朝鮮半島交易を担った玄界灘の海人族
近江安曇川の地名の元となった海人族「安曇族」
2. 大陸・朝鮮半島や東国への大和の玄関口 若狭・北近江の和鉄の道を訪ねる

2.1. 安曇川の左岸 琵琶湖を見晴らす饗庭野丘陵

多量の鉄素材を出土した熊野本弥生集落遺跡と古墳時代前期の古墳群熊野本古墳群

2.2. 5世紀 若狭国 初期前方後円墳の王墓群 脇袋古墳群

丹後にとってかわった大和の玄関口 若狭/北近江

2.3. 若狭と大和そして 朝鮮半島交流との深い関係を示す

若狭 遠敷川(おにゆうがわ) 「鶉の瀬の水送り」

3. 近江は鉄の国 古代近江で育てられた量産型たたら製鉄

鉄を必要とする拠点での古代製鉄コンビナートのベースを作った

- わたしのlife work 「和鉄の道・Iron Road たたら製鉄遺跡探訪 スライド 」 約15分

弥生末期から古代奈良時代にかけて 大陸・朝鮮半島との最大の交易品は「鉄」

その鉄を日本に持ち込んだ航海術にたけた海人族・渡来人たち。

その鉄が若狭・北近江を通して、日本各地に広がり、数々のドラマを生み、素晴らしい景色を作っていた。

自分たちの町の祖先たちが それに大きな役割を果たしていたと考えてみてください。

そんな「鉄」の景色のスライド集をお見せしたい。

「和鉄の道・Iron Road」から見た日本誕生前夜の北近江・若狭 北近江・若狭が輝いた時代

1. 大和王権の成立前夜 大陸・朝鮮半島交易を担った玄界灘の海人族
近江安曇川の地名の元となった海人族「安曇族」
 2. 大陸・朝鮮半島や東国への大和の玄関口 若狭・北近江の和鉄の道を訪ねる
 - 2.1. 安曇川の左岸 琵琶湖を見晴らす饗庭野丘陵
多量の鉄素材を出土した熊野本弥生集落遺跡と古墳時代前期の古墳群熊野本古墳群
 - 2.2. 丹後にとってかわった大和の玄関口 若狭/北近江
5世紀 若狭国 初期前方後円墳の王墓群 脇袋古墳群
 - 2.3. 若狭と大和そして 朝鮮半島交流との深い関係を示す若狭
遠敷川(おにゅうがわ) 「鶴の瀬の水送り」
 3. 近江は鉄の国 古代近江で育てられた量産型たたら製鉄
鉄を必要とする拠点での古代製鉄コンビナートのベースを作った
- ◎ わたしの life work スライド「和鉄の道・Iron Road たたら製鉄遺跡探訪」 約15分

弥生末期から古代奈良時代にかけて 大陸・朝鮮半島との最大の交易品は「朝鮮半島の鉄素材」
その鉄を日本に持ち込んだ航海術にたけた海人族・渡来人たちがいた。

古墳時代から古代 大陸・朝鮮半島への大和の日本海側玄関口として「輝いた北近江・若狭」の時代でもある。

文物ばかりでなく、数多くの人たちが行き来し、新しい文化・技術が息づき、交易を生業として 大陸・日本各地をめぐる担航海術にたけた人たち海人族と呼ばれる人たちが活躍し、この海人族や渡来人が朝鮮半島・大陸と日本の交流を支え、日本各地に文化・技術を伝え、日本の国づくりに大きな役割を演じつつ、日本各地に定住していった。

北近江・若狭にもそんな人たちが数多くおり、大和との連携しつつ、大きな役割をしたと考えられている。

北近江 安曇川はそんな海人族の人たちがいた痕跡が、安曇川の地名に残っている。

この時代の交易の中心は朝鮮半島の鉄素材。 その鉄が若狭・北近江を通過して、日本各地に広がり、数々のドラマを生み、素晴らしい景色を作った。自分たちの町の祖先たちがその過程に大きな役割を果たしていたと考えてみてください。そんな「鉄」の景色のスライド集を最後に見ていただき、まとめとします。

弥生末期から古代奈良時代にかけて 大陸・朝鮮半島との最大の交易品は「朝鮮半島の鉄素材」

その鉄を日本に持ち込んだ航海術にたけた海人族・渡来人たちがいた。

古墳時代から古代 大陸・朝鮮半島への大和の日本海側玄関口として「輝いた北近江・若狭」の時代でもある。

文物ばかりでなく、数多くの人たちが行き来し、新しい文化・技術が息づき、交易を生業として 大陸・日本各地をめぐる担航海術にたけた人たち海人族と呼ばれる人たちが活躍し、この海人族や渡来人が朝鮮半島・大陸と日本の交流を支え、日本各地に文化・技術を伝え、日本の国づくりに大きな役割を演じつつ、日本各地に定住していった。

北近江・若狭にもそんな人たちが数多くおり、大和との連携しつつ、大きな役割をしたと考えられている。

北近江 安曇川はそんな海人族の人たちがいた痕跡が、安曇川の地名に残っている。

この時代の交易の中心は朝鮮半島の鉄素材。

その鉄が若狭・北近江を通して、日本各地に広がり、数々のドラマを生み、素晴らしい景色を作っていた。

自分たちの町の祖先たちがその過程に大きな役割を果たしていた。

そんな「鉄」の景色のスライド集を最後に見ていただき、まとめとします。

【 プレゼン ベース資料 】

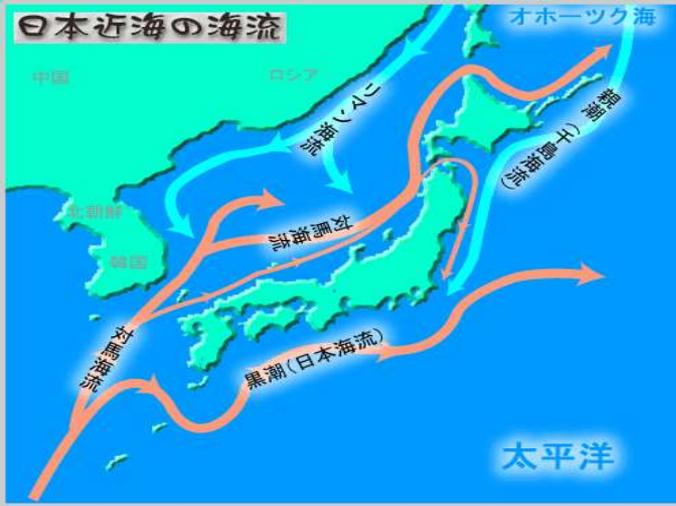
1. 「和鉄の道・Iron Road」 北近江 安曇川・マキノ 雪の山郷 Country walk
<http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/5iron01.pdf>
2. 「和鉄の道・Iron Road」 南北市糴（してき） 朝鮮半島と倭を結ぶ「和鉄の道」
<http://www.infokkkna.com/ironroad/2011htm/iron7/1109yayoiironroad.pdf>
3. 「和鉄の道・Iron Road」 卑弥呼の時代からの大陸への玄関口 若狭・北近江の「若狭街道」
大陸・朝鮮半島の鉄をむ求めて続く若狭・北近江の「和鉄の道」を訪ねて
<http://www.infokkkna.com/ironroad/2008htm/iron4/0810wksa00.htm>
4. 「和鉄の道・Iron Road」 古墳時代朝鮮半島との交流玄関口「若狭」を再度訪ねる
<http://www.infokkkna.com/ironroad/2011htm/iron7/1110wakasa00.htm>
5. 「和鉄の道・Iron Road」 愛媛大・今治市共同シンポジウム「鉄 と古代国家 今治に刻まれた鉄の歴史」
<http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron15.pdf>

日本近海の海流

日本黎明の時代の日本海交流



日本黎明の時代の日本海交流



若狭 鳥浜貝塚遺跡から出土した丸木舟

若狭町内では 鳥浜貝塚から2艘、ユリ遺跡から4艘、合計6艘の縄文時代の丸木舟がみつかっています。これらがつくられたのは縄文時代前期(約6300年前)から晩期(約2800年前)にわたっています。



鳥浜貝塚1号丸木舟



鳥浜貝塚2号丸木舟



ユリ遺跡1号丸木舟



ユリ遺跡2号丸木舟



ユリ遺跡3号丸木舟

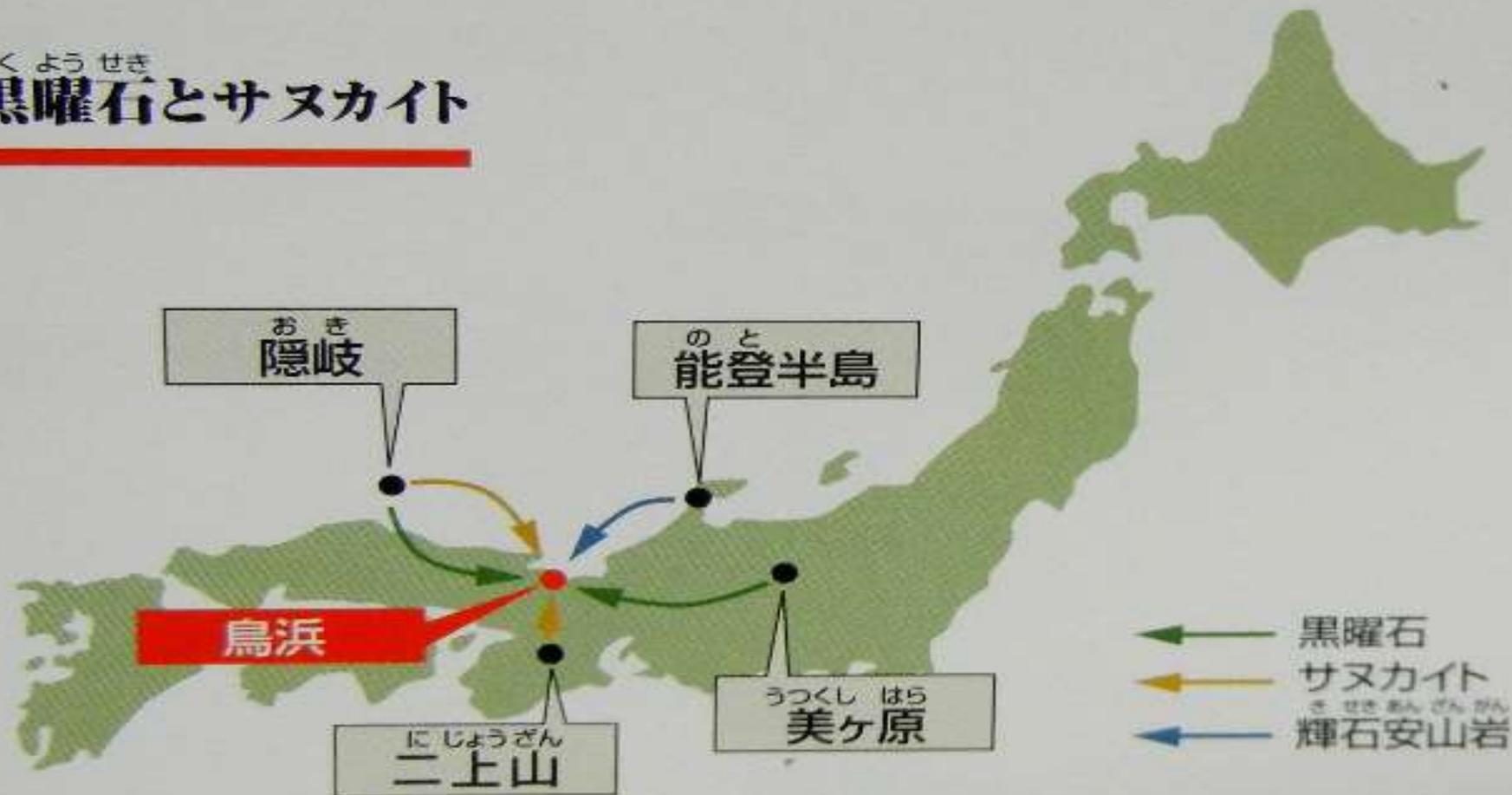


ユリ遺跡4号丸木舟



若狭三方縄文博物館

こくようせき 黒曜石とサヌカイト



鳥浜の縄文人達の生活にも、鋭利な石の刃は欠かせないものだったでしょう。彼らもまた、良質の石材を求めて、遠方まで陸路、時には丸木舟に乗って三方湖から水月湖、菅湖から久々子湖に抜け若狭の海へ漕ぎ出したのではないのでしょうか。我々の想像以上に縄文の人々は移動と交易を繰り返していたのでしょう。

糸魚川の翡翠 沼河比売伝説 出雲と越とのつながり

『古事記』の伝承

八千矛神(大国主)が高志国の沼河に住む沼河比売を妻にしようと思い、高志国に出かけて沼河比売の家の外から求婚の歌を詠んだ。

沼河比売はそれに応じる歌を返し、翌日の夜、二神は結婚した。

新潟県糸魚川市に残る伝承では、大国主と沼河比売との間に生まれた子が建御名方神で、姫川をさかのぼって諏訪に入り、諏訪大社の祭神になったという。



奴奈川姫と建御名方命の像

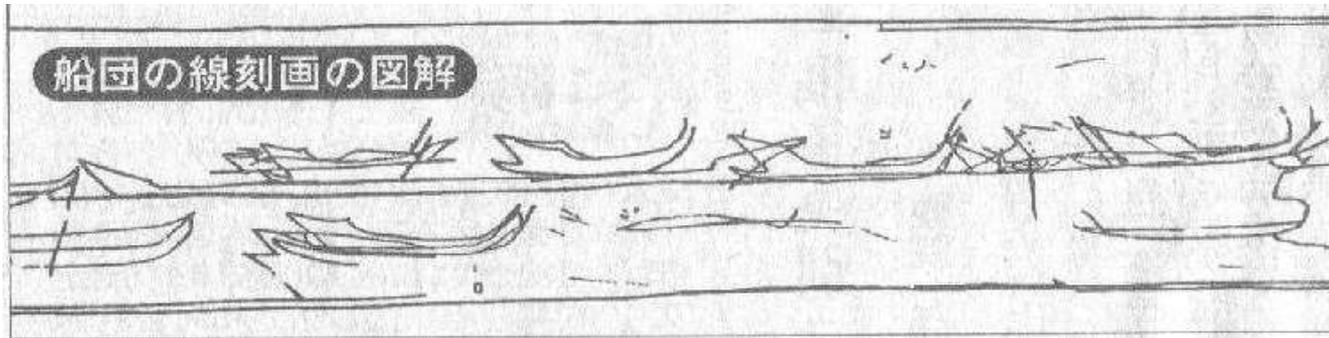


ヒスイの大珠(たいしゅ)

三内丸山遺跡の翡翠

新羅 天日槍伝説の兵庫県出石 袴狭(はかざ)遺跡

1994年、15艘の準構造船が描かれた長さ197.3cm 巾16.1cm のスギ板が出土し、話題を呼びました。彼等はこんな船に乗って渡来したのでしょうか？



但馬地方の中央を日本海に向かって北に流れる円山川の支流の出石川のさらに支流、袴狭川の流域にある弥生時代から古墳時代の遺跡で、日本海へは直線距離にして約18kmのところにある。

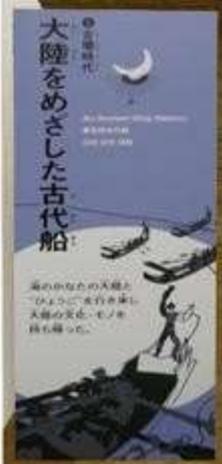
豊岡盆地東部 西側以外の三方を、標高150 m前後の山によって囲まれた谷の狭い平地で、東から西へ緩やかに傾斜しています。この平地部の南側の山裾を流れる袴狭川沿いの標高約5~10mの低湿地に、袴狭遺跡は広がっています。

この遺跡には天日槍命を埋葬したとの伝承もある。



復元された古代船

若王子遺跡からは 鉄鍛冶関連遺物のほか
 古代大型船の船板も出土した
 鉄素材を朝鮮半島に求めた大型船か？



古墳時代の若王子遺跡から出土した船板

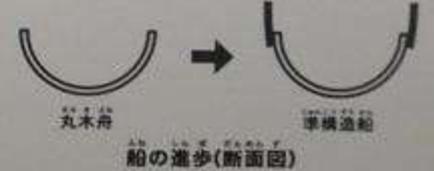
出土した船

出土部分	船底板
時代	古墳時代後期
材質	スギ
状態	固定をよくするため、裏が平らになっている

古墳時代後期 (若王子)

おおがたせん
大型船のはじまり

弥生時代の終わりには、丸木舟の上
 に板を足した船(準構造船)が誕生
 しました。
 船を高くすることで波に強くなり、
 重いものを運べるようになりました。



出土した準構造船 久宝寺遺跡(大阪府)



出土した船

出土部分	船底板
時代	弥生時代後期
材質	クスノキ
状態	船底板を固定する穴があいている

出土部分	舷板
時代	弥生時代後期
材質	クスノキ
状態	船底板をはめこむみぞが突られている

弥生時代後期 (若王子)

兵庫県立考古博物館の復元古代船「ヒボコ」





□ 出土した準構造船（縮小復原模）
大阪府 久宝寺遺跡 / 弥生終末

日本海沿岸の交流を語る数々の伝承・説話が残っている



日本の黎明 朝鮮半島から日本へ 和鉄の道
古代のハイウェイ 自然の道

- 対馬海峡を渡る 海流と季節風 & 島伝い
- 沿岸をめぐる 日本海沿岸と瀬戸内海
- 日本構造線等の断層帯
四国吉野川 紀伊半島紀ノ川
- 日本列島を南北につなぐ
播磨/丹後を結ぶ氷上回廊
大和・若狭・東国を結ぶ 琵琶湖・若狭街道・関ヶ原越

古代のハイウェイ 自然の道 に国が生まれた

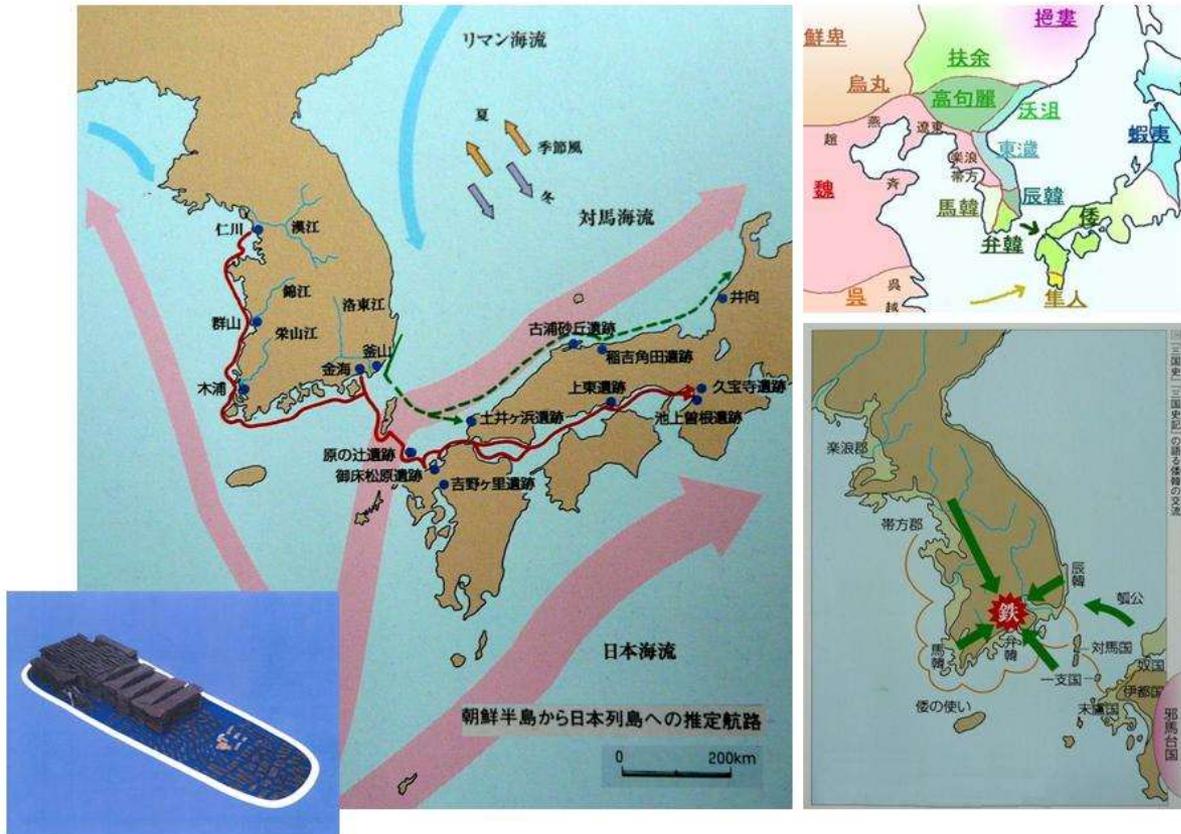
- ① 対馬海峡を渡る 海流と季節風 & 島伝い
- ② 沿岸をめぐる 日本海沿岸と瀬戸内海
- ③ 日本構造線等の断層帯 四国吉野川 紀伊半島紀ノ川
- ④ 日本列島を南北につなぐ
播磨/丹後を結ぶ 氷上回廊
大和・若狭・東国を結ぶ 琵琶湖・若狭街道・関ヶ原越



弥生時代の終末期 卑弥呼の時代
朝鮮半島の鉄が日本海交流の中心に

また、大陸・朝鮮半島では戦乱の時代に
戦乱を逃れた多数の渡来人が文化・技術を伝える

大和の大陸・朝鮮半島への玄関口として 丹後・若狭が重要拠点



この大陸・朝鮮半島との交流を支えたのは誰か?? ⇔ 玄海灘の海人族の存在

遺跡名: 鴨遺跡(かもいせき)

所在地: 高島市鴨



井戸

遺跡の概要

鴨遺跡は、滋賀県北西部の高島平野南端の南鴨地区に位置し、遺跡の南には、鴨川(かもがわ)が大きく蛇行しながら東流しています。

鴨遺跡は、縄文時代から近世にかけての複合遺跡で、発掘調査によって縄文土器、石器、銅印(どういん)、古銭(皇朝十二銭(こうちようじゅうにせん))、木簡をはじめ、多くの遺物が出土しています。木簡は貞観(じょうがん)15年(873)9月17日から10月上旬にかけての農作業の内容が書かれたものや、遠敷郡遠敷郷(おにゅうぐんおにゅうごう)(福井県小浜市周辺)からの、荷札木簡(にふだもっかん)などがあります。また、墨書土器(ぼくしょどぎ)も多数出土しています。その他の木製品としては木沓(きくつ)や下駄、櫛等が出土しました。

遺構としては、柵と溝に囲まれた約150m四方の区画が見つかりました。区画内からは掘立柱建物(ほったてばしらたてもの)、井戸跡、水路跡などが見つっています。

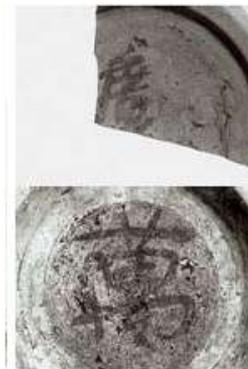
高島郡エリア



地図を拡大

鴨遺跡へのアクセス

JR湖西線近江高島駅もしくは安曇川駅下車、徒歩。



墨書土器



木簡



緑釉陶器

1. 大和王権の成立前夜 大陸・朝鮮半島交易を担った玄界灘の海人族
近江安曇川の地名の元となった海人族「安曇族」

大和王権の成立前夜 大陸・朝鮮半島交易を担ったのは誰か?? 玄界灘の海人族





An aerial photograph showing the Korean Peninsula on the left and the Japanese archipelago on the right, separated by the Sea of Japan. The land is green and brown, while the water is a deep blue. The text is overlaid in the upper left quadrant.

朝鮮半島と倭との交流をになった航海術にたけた人たちがいた
玄界灘を自由に行き来する「海人族」

弥生時代末期から古代へ 大和王権・国家が成立する過程

大陸・朝鮮半島との活発な交流があった

活発な交流の中で 数多くの文物が日本に伝来したが、
中心だったのは 朝鮮半島の「鉄素材」
製鉄がまだできない倭では 鉄素材の供給を朝鮮半島に頼っていた

邪馬台国連合の絆は 北部九州に握られていた

この朝鮮半島の鉄の安定供給路の獲得であったという

魏書に記載されている弥生時代末 3世紀頃の倭と朝鮮半島の交流

1.1. 魏書(286)に書かれた鉄関連記事

■「魏誌 東夷伝・弁辰条」

国出鉄、韓、濊、倭皆従取之。諸市買皆用鉄、如中國用貨、又以供給二郡。

国、鉄を出す。韓、濊、倭 皆従がいて之を取る。貨幣がわりにも鉄を用いる、また以て二郡に供給す

■「魏誌倭人伝」

自女王國以北、特置一大率、檢察諸國、諸國畏憚之。常治伊都國、於國中有如刺史。

王遣使詣京都、帶方郡、諸韓國、及郡使倭國、皆臨津搜露、傳送文書賜遺之物詣女王、不得差錯。

女王国の北方の諸国には「一大率」という官が置かれて国々を監視している。

一大率は伊都国にあり、魏の刺史のような役目を果たしている。

伊都国は外交の中心地で魏や韓の国々の使節はここに停泊して文書や贈物の点検を受けて女王に送っている。

この朝鮮半島・大陸と日本各地との交流を担ったのは誰か???

航海術にたけ、大陸・半島と日本各地を自由に行き来した海人族の存在

「**南北市糶**」 交易を生業とする人たちが玄海灘・北部九州にいた

安曇族・宗像族とよばれる海人族

大陸・半島への水先案内人であり、日本各地に大陸・朝鮮の文物を日本に持ち込んだ

また、渡来人やこの海人族が日本各地に進出し、新しい技術・文化を伝えていった

倭人伝 壱岐・対馬の記事の中に「**南北市糶**」という言葉がでてくる。

「**糶**」を何と

読むのか不思議で 読めなかった漢字。「**テキ**」と読み、「**米を買い入れる**」ということから「**交易**」を意味するという。

< 対 馬 >

「始度一海千餘里至對海國 其大官曰卑狗副曰卑奴母離 所居絶島方可四百餘里

土地山險多深林道路如禽鹿徑 有千餘戸無良田食海物自活乘船南北市糶 」

始めて一海を渡る千余里、対海国(対馬)に至る。其の大官を卑狗といい、副を卑奴母離(ひなもり)という。

居る所絶島、方四百余里ばかり。土地は山険しく、深林多く、道路は禽鹿の径の如し。

千余戸あり。良田なく、海物を食して自活し、船に乗りて南北に市糶(してき)す。

< 壱 岐 >

「又南渡一海千餘名曰瀚海至一大國 官亦曰卑狗副曰卑奴母離 方可三百里

多竹木叢林有三千許 家差有田地耕田猶不足食亦南北市糶 」

また南一海を渡る千余里、名づけて瀚海(かんかい)という。一大国(壱岐)に至る。官をまた卑狗

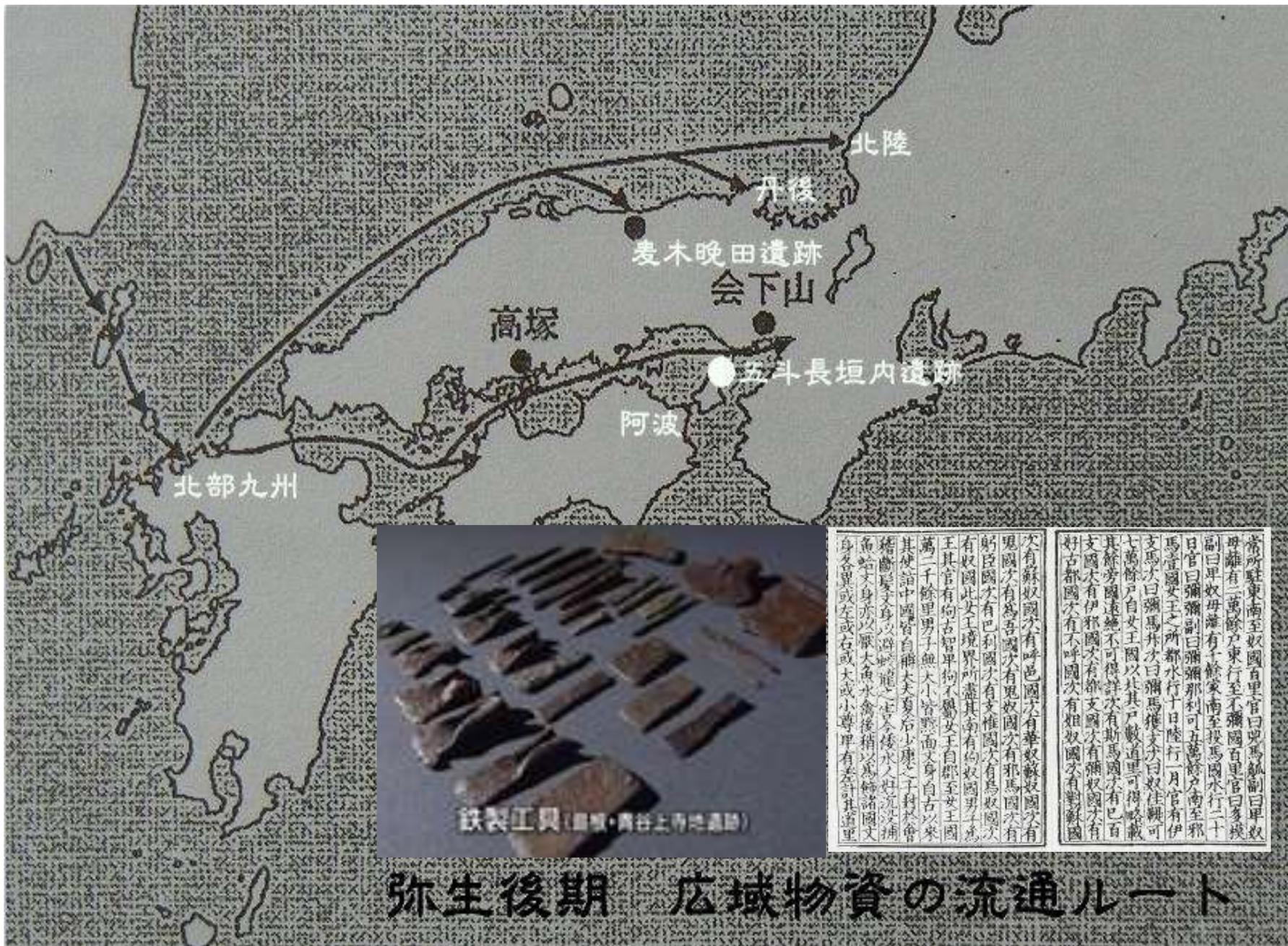
といい、副を卑奴母離という。方三百里ばかり。竹木・叢林多く、三千ばかりの家あり。やや田地あり、

田を耕せどもなお食するに足らず、また南北に市糶す。

朝鮮半島・日本を自由に行き来する海人族の人たち
その様子が魏志倭人伝にも登場する







常所駐東南至奴國百里官曰鬼馬副曰卑奴
 母離有二萬餘戶東行至不彌國百里官曰多
 副曰卑奴母離有七餘家南至投馬國水行二十
 日官曰彌彌副曰彌彌那利可五萬餘戶南至邪
 馬蓋國女王之所都水行十日陸行一月官有伊
 支馬次曰彌馬井次曰彌馬推支次曰奴佳親可
 七萬餘戶自女王國以其戶數道里可得略載
 其餘旁國遠無不可得詳次有斯馬國六百
 支國次有伊和國次有都支國次有彌奴國次有
 好古都國次有不呼國次有粗奴國次有對蘇國
 次有蘇奴國次有呼色國次有華奴蘇奴國次有
 鬼國次有為吾國次有鬼奴國次有邪馬國次有
 躬臣國次有巴利國次有支惟國次有烏奴國次
 有奴國此女王境界所盡其南有約奴國男子
 王其官有約古智卑狗不覺女王自都至女王國
 萬二千餘里男子飽大小皆野而支身自古以來
 其使詣中國皆自稱大夫夏后少康之子封於會
 稽餘支身以游經龍定冬後水入好流沈捕
 魚始支身亦以厭大魚水禽後稍以為飾諸國支
 身各異或左或右或大或小尊卑有差計其道里

弥生後期 広域物資の流通ル一ト

日本の黎明 朝鮮半島から日本へ 和鉄の道

古代のハイウェイ 自然の道

- 対馬海峡を渡る 海流と季節風 & 島伝い
- 沿岸をめぐる 日本海沿岸と瀬戸内海
- 日本構造線等の断層帯
四国吉野川 紀伊半島紀ノ川
- 日本列島を南北につなぐ
播磨/丹後を結ぶ氷上回廊
大和・若狭・東国を結ぶ 琵琶湖・若狭街道・関ヶ原越

日本の黎明 朝鮮半島から日本へ 和鉄の道

古代のハイウェイ 自然の道 に国が生まれた

- ① 対馬海峡を渡る 海流と季節風 & 島伝い
- ② 沿岸をめぐる 日本海沿岸と瀬戸内海
- ③ 日本構造線等の断層帯 四国吉野川 紀伊半島紀ノ川
- ④ 日本列島を南北につなぐ
播磨/丹後を結ぶ 氷上回廊
大和・若狭・東国を結ぶ 琵琶湖・若狭街道・関ヶ原越

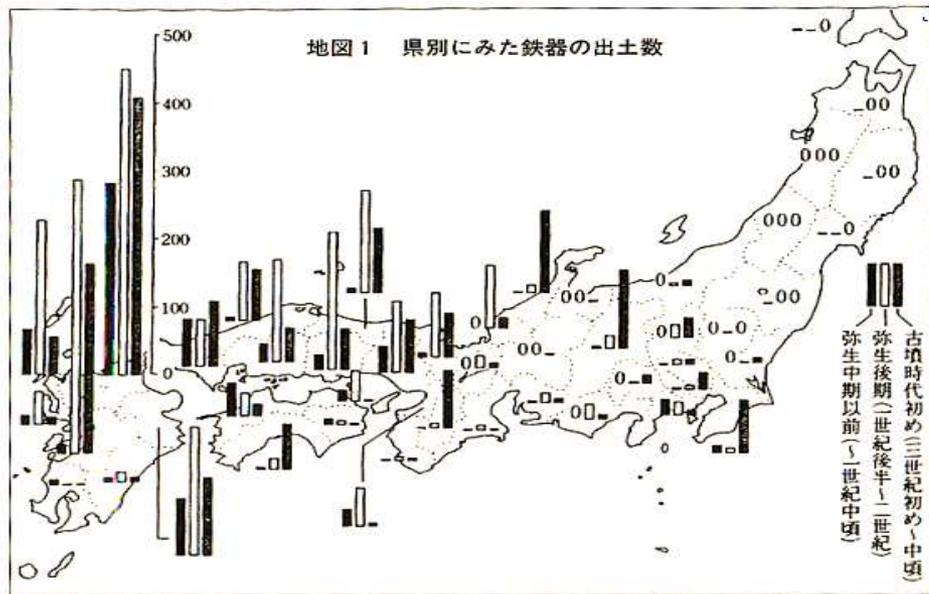
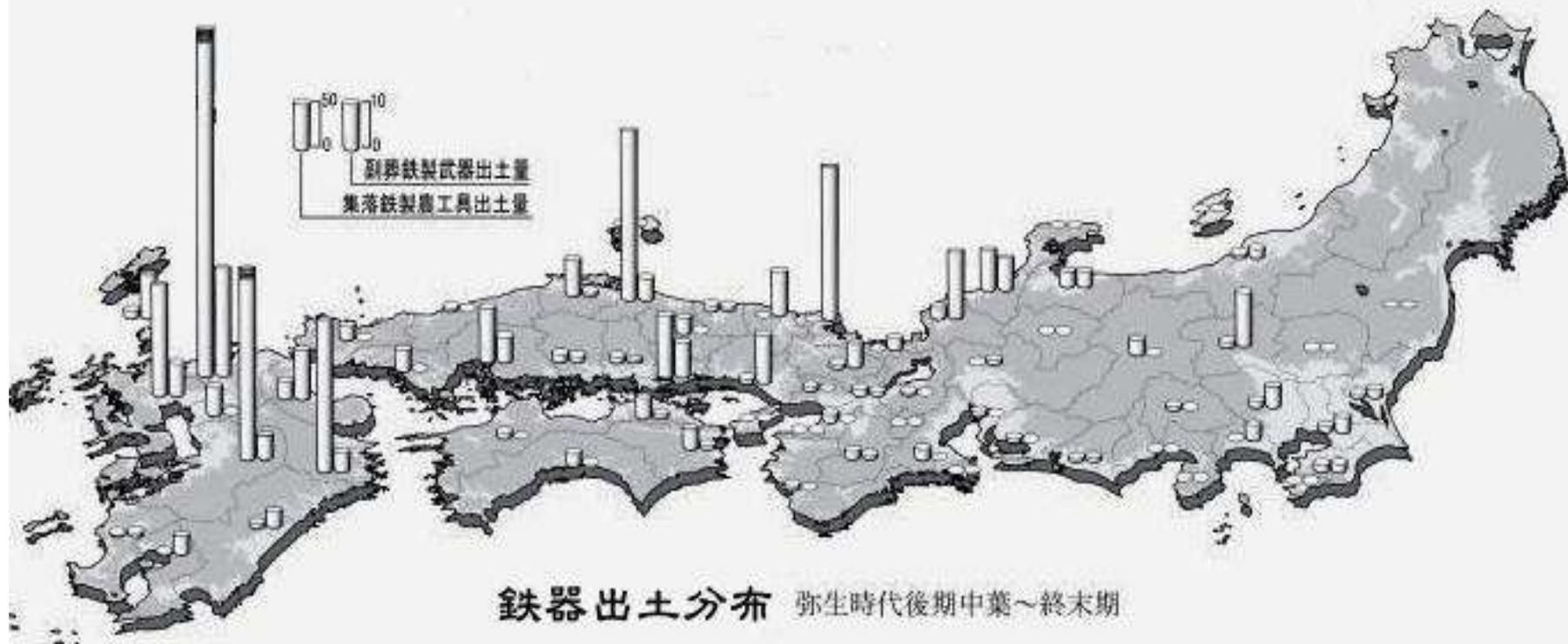


日本海沿岸諸国 (山陰から北陸へ) 玉造工房と鉄 弥生末期 玉造工房の展開と同時期に鉄の 集積が急伸した山陰から北陸 玉造工房と鉄



第3図 島根県平所遺跡出土
水晶燻玉破損品





216 ガラス玉作りに伴うガラス破片とガラス滓
上左: 長さ1.1cm / 弥生中葉 奈良河内郡 / 弥生中葉後半

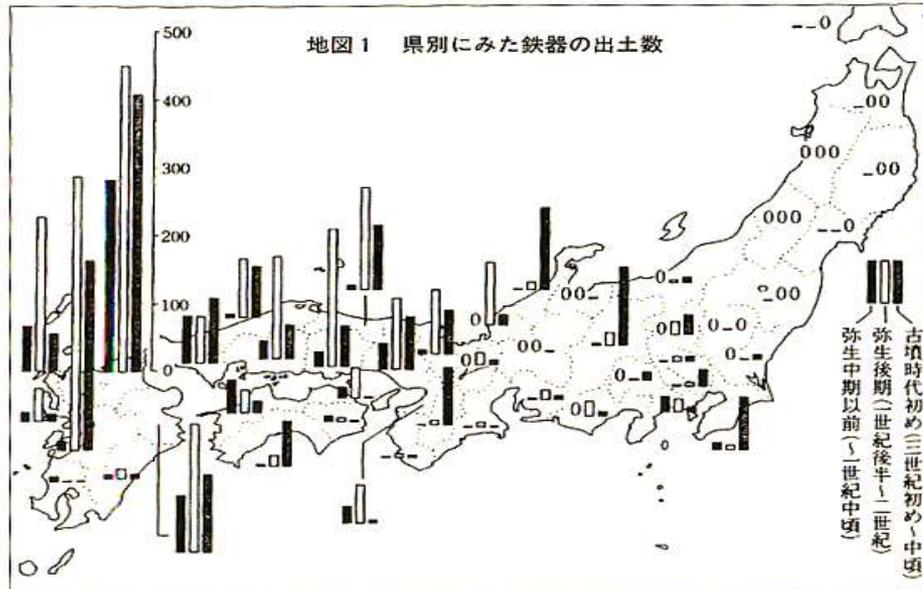
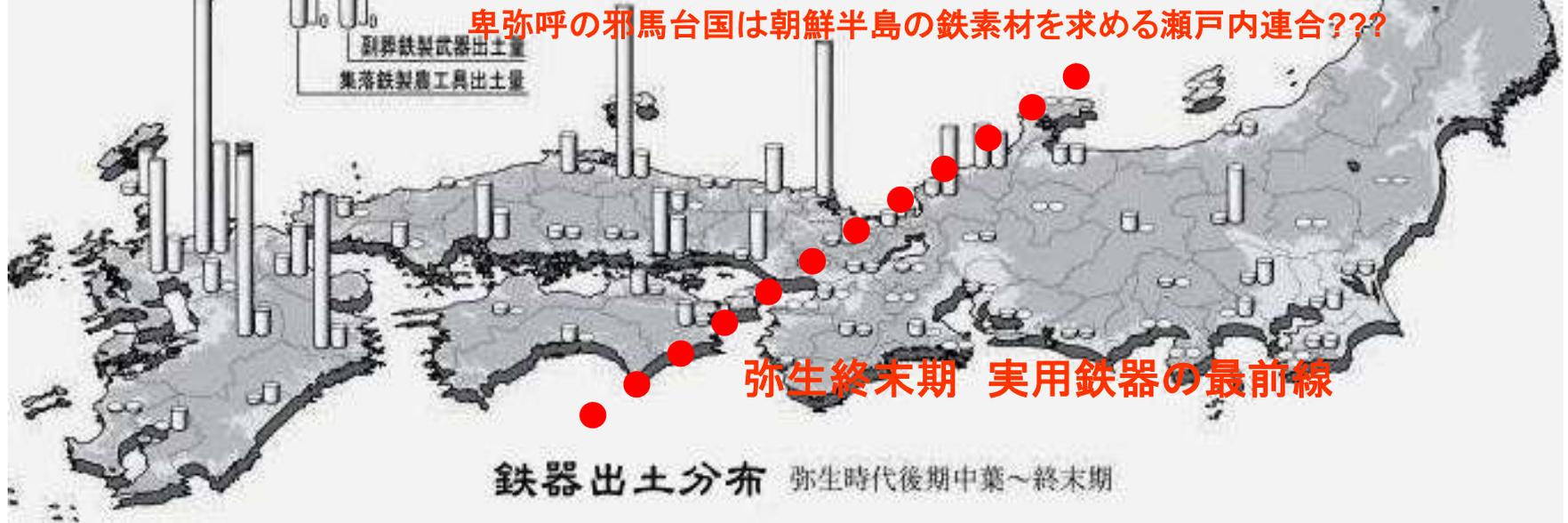


222 鉄芥などの鉄製品と加工前の鉄素材
上右: 長さ3.5cm / 弥生中葉 奈良河内郡 / 弥生中葉後半

鉄の神が各地で開拓神として伝承されることを考えると

大和には鉄がない どれだけ 鉄を欲しかっただろうか...

卑弥呼の邪馬台国は朝鮮半島の鉄素材を求める瀬戸内連合???

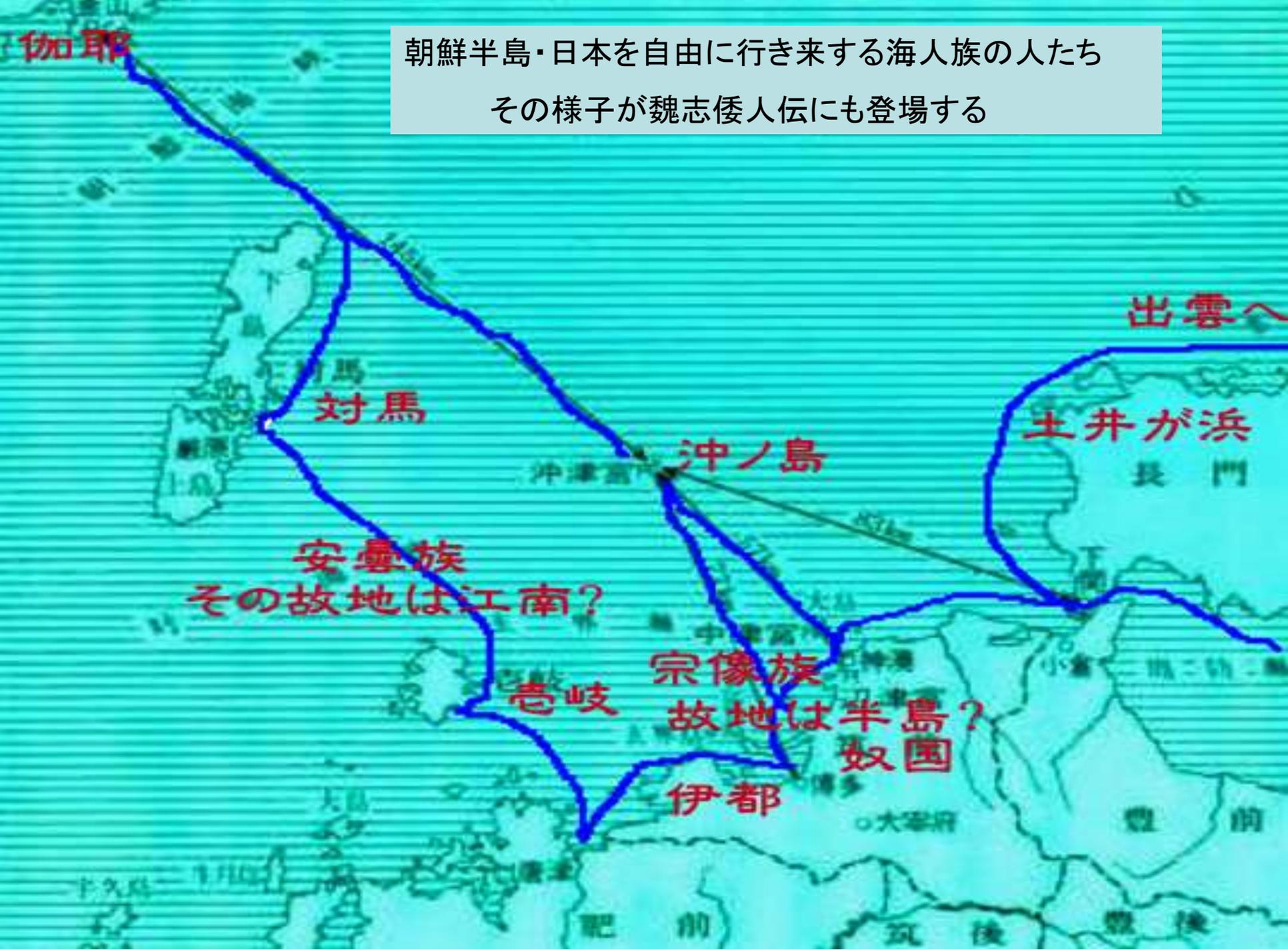


216 ガラス玉作りに伴うガラス破片とガラス滓
上左: 長さ1.1cm / 弥生中 奈良岡遺跡 / 弥生中後半



222 鉄片などの鉄製品と加工前の鉄素材
上右: 長さ5.8cm / 弥生中 奈良岡遺跡 / 弥生中後半

朝鮮半島・日本を自由に行き来する海人族の人たち
その様子が魏志倭人伝にも登場する





丹後

若狭

大和から日本海沿岸へ 大陸や東国への玄関口

北近江 安曇川に住んだ安曇族

若狭街道で小浜から日本海沿岸諸国・大陸へ

琵琶湖の対岸は東国へ通じる伊吹・関ヶ原

琵琶湖を南へ 近江から大和へ

由良川

若狭街道

安曇川

関ヶ原

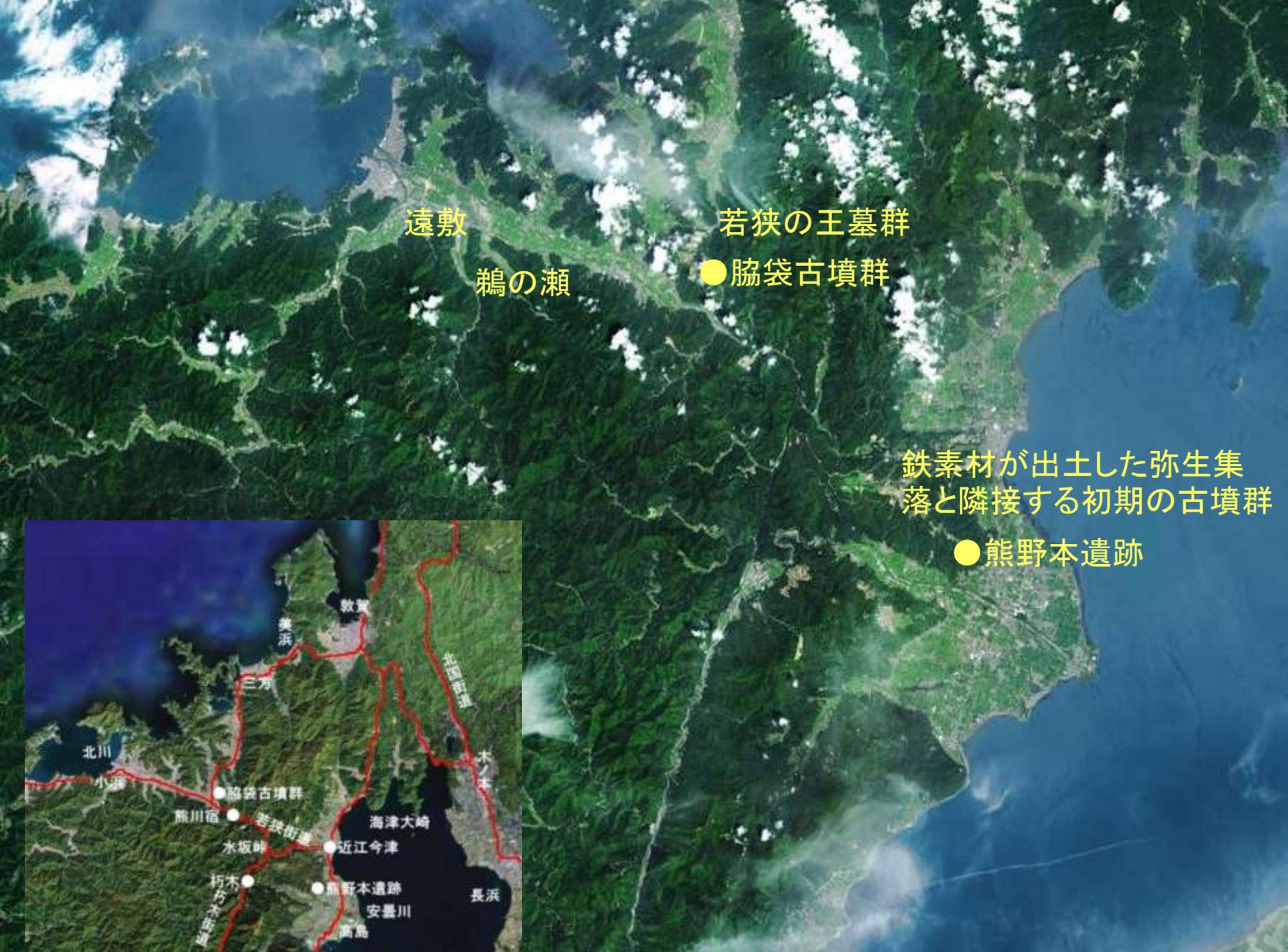
氷上回廊

加古川

大和への玄関口

● 木津川泉津

河内湖



遠敷

鵜の瀬

若狭の王墓群

● 脇袋古墳群

鉄素材が出土した弥生集
落と隣接する初期の古墳群

● 熊野本遺跡



2. 大陸・朝鮮半島や東国への大和の玄関口 若狭・北近江の和鉄の道を訪ねる

- 2.1. 安曇川の左岸 琵琶湖を見晴らす饗庭野丘陵
多量の鉄素材を出土した熊野本弥生集落遺跡と古墳時代前期の古墳群熊野本古墳群
- 2.2. 5世紀 若狭国 初期前方後円墳の王墓群 脇袋古墳群
丹後にとってかわった大和の玄関口 若狭/北近江
- 2.3. 若狭と大和そして 朝鮮半島交流との深い関係を示す



- 遠敷の郷 小浜古代の小浜の湊
- 脇袋古墳群 若狭国の王墓 初期古墳群
- 北近江の交通の要衝 東国・大和への入口
安曇川・熊野本
- 熊野本遺跡 鉄素材の出土と初期前方後方墳
- 熊野本古墳群 初期前方後円墳

卑弥呼の時代からの大陸への玄関口 若狭・北近江の「若狭街道」 大陸・朝鮮半島の鉄をもとめて続く若狭・北近江の「和鉄の道」

● 北近江 高島市 新旭町「熊野本遺跡」 BC1～1世紀

北近江安曇川の北岸に連なる饗庭野丘陵の南端 熊野本にある弥生の高地性集落 大量の鉄素材を大陸から持ち込んでいたといわれる。琵琶湖の北岸北近江から日本海沿岸・大陸への玄関口「若狭」へ向かう山越えの入り口に当たり、眼下に広がる高島平野と琵琶湖を一望できる。

鉄の畿内流入の重要路で 早くから開かれた地であろう。この地に弥生の大きな集落があり、入手した鉄を鉄器に加工していた。
そして、この弥生の集落が消える時期を同じくして、この地の王たちの墳墓が築かれる。

● 北近江 高島市 新旭町「熊野本古墳群」(熊野本遺跡の隣接地)

3世紀 古墳時代安曇川の地を支配した王が、琵琶湖を見下ろす熊野本遺跡の跡地に築いた王墓群

初期前方後円墳・後方墳など大和との密接な関係・鉄製品や朝鮮系遺物の副葬など大和「鉄の道」北の玄関の守りの王の色彩が濃く、この地が重要拠点だった証拠だろう。

● 若狭 若狭町 上中町 脇袋「脇袋古墳群」 5世紀

若狭から北近江へ遡る北川右岸の丘陵地に初期前方後円墳など大和との密接な関係を示す古墳群が築かれ手いる大和「鉄の道」北の玄関 若狭の出入口であるこの地の王墓群。大陸と大和を結ぶ重要路を守る地域首長の色彩が濃く、大和がこの地 この道を重要視していた痕跡だろう

熊野本遺跡



JR新旭駅

鉄素材が出土した弥生の集落 熊野本遺跡 と
卑弥呼の時代 古墳時代前期の熊野本古墳群

日本の原像



第12部 権力の奥津城 ③

前方後方墳「狗奴国を象徴」

時代劇がごころも、再検討する必要に迫られている」といふ。10月に再開される藤原の権政、遺物などを解明する詳細な雑誌に続き、10月号に中心地である墓穴付跡を掘り下げて調査することになった。学界の期待は大きい。

熊野発見の直後、発掘調査の対照の熊野町・熊野本古墳群も発掘も後塚と同様に前方後方墳と分かった。全長約30メートル、高さ3・1メートル、出土土器からこれも9世紀前半の築造と判定された。それ以前の前山古墳(田形、宮形)や後の前方後方墳など墳墓8基から成る墳墓群が特徴だ。

盗貫と東海 古いのは？

関西圏内ではこの2例を含め、前方後方墳が計4基前後見つかった。一方、この2例とは異同時期の前方後方墳である近江県守山市・岡とお覚遺跡など、東海地方でも同数くらい確認されている。日本全体で約4000基の前方後方墳が分かってきたが、近年の調査の結果、最古級の遺跡は盗貫・東



海に、その中心があったものの発見が少なくなった。それらは熊野本古墳群の奥津城が遺跡となつた時期に遡る。

単独で対立した狗奴国は、この前方後方墳をシンボルにしていたとの学説がある。石野政隆をはじめ、かなりの研究者が支持するようになっていく。中国の歴史書「魏志倭人伝」では、狗奴国は邪馬台国の南にあったといふ。この記述を、「東」の誤記とみる「邪馬台国説」論者の主張だ。

このため、前方後方墳は発掘と調査のどちらが古いかが注目され、論争になった。7月に奈良県香取市・ふたかみ文化センターに岡地城の専門家を含む研究者が集まって開かれたシンポジウムでも決着はつかず、11月23日にも埼玉で歴史シンポジウム「1世紀の動乱」で「邪馬台国説」論者が開かれる。大和・河内地域からみれば、東海は東方だが故説は北方である。「邪馬台国九州説」論者からは当然、軽視される傾向がある。確かなことは、盗貫・東海地域で「特色ある古墳」が誕生した可能性があるといふ。

石野政隆はこう考える。「古い前方後方墳は佐賀・古野や佐賀など各地にもある。方形の伝統的な墳墓が各地で独自に発展していたことを物語る」。有名な古墳は前方後方墳である。そのかげに隠れていた類のある前方後方墳は調査の進展に伴い逆転、ようやく本格的な研究が始まったばかりなのである。(編集委員・大野 幸弘)

相三の楠田文雄・熊野町教委環境文化センター係長によると、供えられた土器の分析で古墳時期が判明、前方部が「ア」状に開く独特の形なども確認された。全長30・5メートル、幅12メートルの墳が掘り、土をたいて掘めた版築土版の墳は高さ3・6メートル。前方部には、きわめて残りの方が長い。南東部に設ける古墳からの「加神社の一部」とされ、地元で大切にされてきた。熊塚が「神体」だった可能性もある。墳墓の一番上に幅3メートル、長さ7メートルの穴の直掘りがあり、ベンガラなどの赤色顔料がまかれていた。被葬者は「1人」だといふ。楠田文雄は「Female」の紐の周りに「古墳



神社の一部と信じられたらしく、いまでも立派な墳丘が残っている神郡熊塚古墳(熊野町香取川)で

鉄素材を出土した 弥生の高地性集落 熊野本遺跡

この集落には鍛冶・朱の工房があったのか…

熊野本遺跡は、弥生時代中期(約2100年前)～後期(約1900年前)の高地性集落です。これまでに直径12mの大型の竪穴建物(たてあなたても)を含む竪穴建物が約40棟見つかっています。

また、鉄製品や鉄素材が多数出土していることから、鉄製品を加工・製作していた可能性が指摘されています。

遺跡の南西からは、東西12m・南北15mの弥生時代後期末の墳丘墓が見つかり、木棺跡(もっかんあと)からは水銀朱(すいぎんしゅ)とガラス小玉741点が出土しました。

墳丘裾からは人頭大の貼石(はりいし)と朱を造る際に使うL字状石杵(えるじじょういしぎね)が出土しています。熊野本遺跡が広がる台地状の丘陵部と、谷で隔たれた北側には、円墳(えんぷん)22基・方墳12基・前方後円墳1基・前方後方墳1基で構成される湖西地域で最も規模の大きな古墳群である熊野本古墳群が所在しています。

熊野本遺跡から多量に見つかった鉄製品や鉄素材は、実態の良くわかっていない弥生時代の鉄生産の様子を知る手がかりとして、注目されています。

熊野本遺跡は、日本海沿岸地域と近畿・東海を結ぶ位置にあり、遺跡の時代は、日本列島内に鉄器文化が急速に普及する時期と重なることから、熊野本遺跡は、交通路や鉄の掌握を通じて大きな勢力を持った、湖西地域の拠点集落(きよてんしゅうらく)であったと考えられます。

集落の廃絶後に、集落跡に墳丘墓が築造され、さらにこれに継続して古墳時代前期～中期にかけて首長墓群(熊野本古墳群)が営まれます。この中には発生期の前方後方墳である熊野本6号墳も含まれており、引き続き、この丘陵を含む地域が、重視されていたことがわかります。



台状墓から出土したガラス玉



朱を造る時に使うL字状石杵

琵琶湖西北の湖岸 安曇川の北側に広がる新旭町熊野本周辺から饗庭野丘陵地 2008.9.1.
丘陵地中央下段(○印)の丘が熊野本遺跡群

- ◆ 日本で鉄素材が作れない時代に鉄素材を出土した弥生の高地性集落熊野本遺跡 BC1~AD1世紀
- ◆ 3世紀 初期の前方後方墳 熊野本6号墳 東海・東国との関係を示す
- ◆ 3世紀 卑弥呼の時代の前方後円墳群 熊野本古墳群





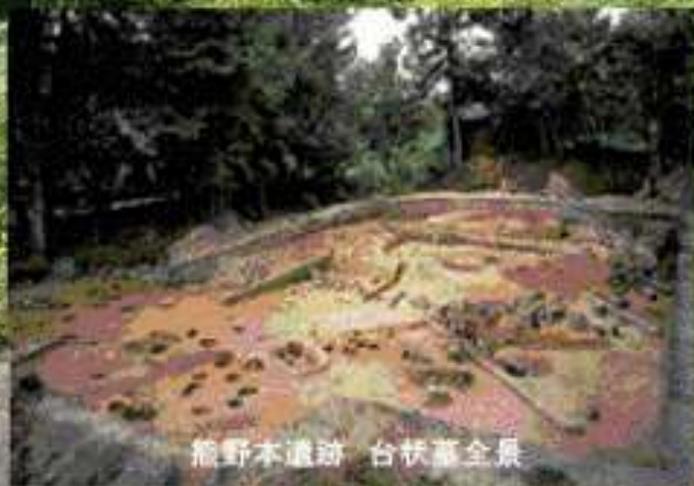


弥生の向地性集落 熊野遺跡がある南の丘(左)と古墳群のある北の丘(右)との別れ周辺 正面に見えるのが南側の丘
そのまま、二つの丘の間の道を登りつめ、右の丘の頂上の方へ回り込むと右手のブッシュの中に「熊野本6号墳」と書かれた
立て札が 倒れかけで立ち、その傍をブッシュの奥に消えかかった細い道がある。 おそらくこの古墳を巡る道だろう。



熊野本古墳群が広がる北の丘へ登りつめたところに熊野本6号墳がありました 2008.9.1

鉄素材を出土した 弥生の高地性集落 熊野本遺跡
この集落には鍛冶・朱の工房があった





卑弥呼の時代に築造された前方後方墳 この地域の首長墓 熊野本6号墳

初期前方後方墳で、東海がルーツと言われる前方
後方墳のルーツは北近江とする説もある重要な古
墳である





道路が整備され開発が放棄された北の丘 今は道も雑草に 2008.9.1.



踏跡を見つけて、ブッシュの中に入り、踏み跡を頼りにこんもり盛り上がった場所を探す。いくつもそんな場所があるのですが、古墳であるかどうか確かでない。この辺りに 大きな円墳 前方後円墳がある辺りなのですが、結局良くわからずに出てきました。

熊野古墳群が分布する北の丘 前方後円墳があるあたり 2008.9.1.

区画整理された丘陵地が放棄され、廃墟化し 雑草・雑木におおわれ、道ときえかかっていた



熊野本遺跡東南の端は崖になっていて、そこからは 眼下に広がる新旭の家並み・高島平野琵琶湖が見渡せる

出土した「鉄」は 板状鉄素材や鉄族など30点以上。鉄素材は長さ29cm 幅約3cm厚さ約3mmのもの9点で、加工した跡のあるものもあり、この地で大陸から来た鉄素材を使っの鉄器の加工・製作が行われていた可能性があると言われていたが、鉄素材・鉄族の実物を見ていないので、実用品がつくられていたがどうか・・・は何ともいえず。

でも、大陸から日本海沿岸を通過して若狭の港に揚げられた鉄が すぐ近くのこの場所で鉄器に加工。この鉄器の流れが、大和への鉄の道の始まりと考えると楽しくなる。

大和が興る前のほんとうに早い時代から 大陸・朝鮮半島から日本海沿岸・若狭を通過して日本の中央 畿内へ入る鉄の道があり、それが北九州と対抗できる大和連合勢力を作りあげたのかもしれない。

若狭・北近江というとすぐに古代 渡来人・継体天皇の系譜が持ち出されるが、そのもっと前からこの地は中央を支える重要な拠点だったのだろう。

古代の和鉄の道 近江から若狭へ

北近江に前方後円墳が築かれた5世紀 同じ時代に日本海側へ山を越えた若狭にも数多くの古墳が築かれ、多数の人・文物が行き交う輝く時代があった



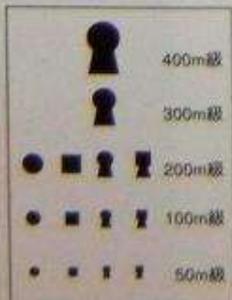
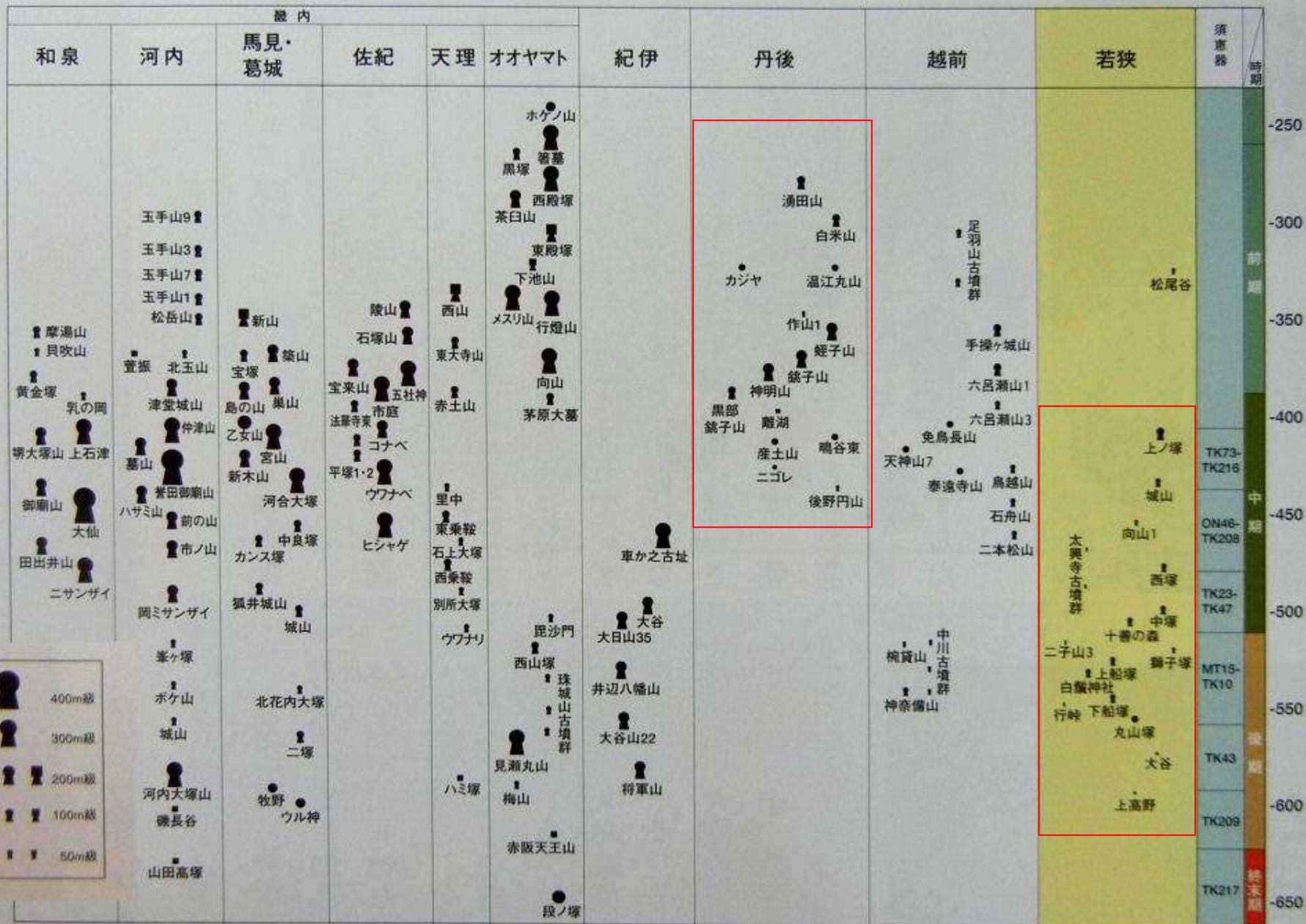
小浜から水坂峠越 琵琶湖へ続く道

若狭地方の主要古墳位置図

若狭地方の主要古墳位置図 5世紀頃
近江からの出口上中町に古墳が集中



畿内とその外縁湾岸地域の古墳編年表



畿内の巨大な前方後円墳に葬られた人物が大王と考えられます。それらは大和→河内・和泉→大和へと移っていきます。周辺の地域の動向は、密接に関わっています。

(高橋克壽氏作成)

北川の北岸 古代大和の鉄の道をおさえる若狭首長墓群 脇袋古墳群 5世紀

若狭町 上中町 脇袋 2008.9.1.



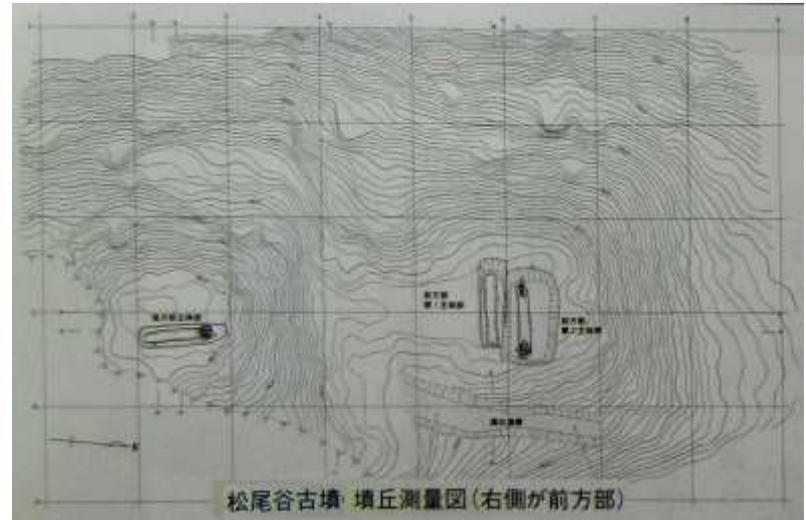
● 松尾谷古墳 4世紀前半 若狭で前方後円墳に先立ち造られた前方後方墳



古墳時代前期 4世紀 松尾谷古墳出土品
若狭町歴史文化館で



松尾谷古墳・前方後方墳(手前が前方部)



松尾谷古墳 墳丘測量図(右側が前方部)

若狭で前方後円墳に先立ち4世紀前半に造られた前方後方墳 松尾谷古墳。若狭町南前川字松尾谷の尾根にあり、若狭における最初の地域首長墳である。前方後円墳は初期大和政権との結びつきが少し弱いか 下位に位置づけられる場合の古墳形式であるが、大和政権と若狭との連携の始まりを示している。主体部は3つ。それぞれ木棺が直葬され、出土したのとしてヤリガンナ・碧玉製管玉鉄剣、鉄槍、鉄鏃などが知られている。しかし、すでに水源地建設の為、消滅しているという。

● 日本最古の横穴式石室 5世紀半の前方後円墳 向山1号墳

脇袋古墳群の西1.5kmの尾根上に造られた前方後円墳で、
日本最古の横穴式石室を持ち、韓国あるいは九州から伝わったと考えられている。
中規模ながら2段に造られ、葺石・埴輪を備え、数多くの鉄器など多彩の副葬品が出土した。



古墳時代中期 5世紀 向山1号墳からの出土鉄製品 若狹町歴史文化館で

● 西塚古墳 脇袋古墳群 5世紀後半の前方後円墳



西塚古墳 5世紀後半の前方後円墳 古墳 脇袋の郷より 開けた北側を眺める 2008.9.1.

脇袋古墳群にある5世紀後半の前方後円墳で、竪穴系横口式石室を持ち、大陸の影響を受けた形態をしているという。

前方後円墳の中央部の土が剥ぎ取られ、現在は後円部と前方部を残すのみとなっているが、金製耳飾り・鏡・金銅製帯金具銀鈴・銅鈴・馬具・冑など多彩な副葬品が出土。



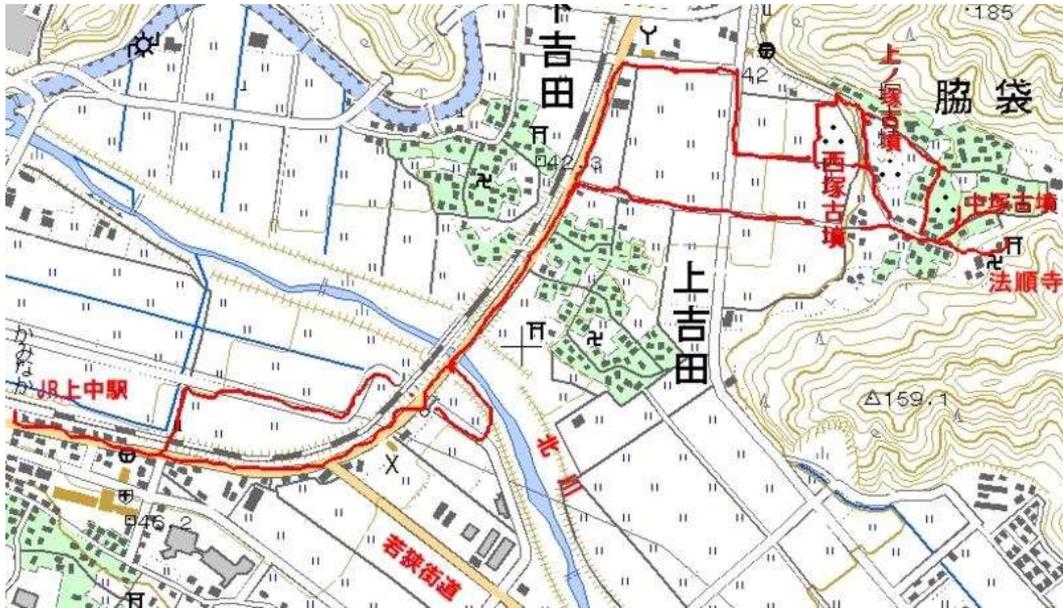
西塚古墳 5世紀後半の前方後円墳

全長74m 後円部径39m 前方部幅47m 横穴式石室を持つ前方後円墳であるが、前方部がほとんど削り取られている

【主要出土品】須臾器 中国製神人面埴埴 仿製四獣鏡 武器（鉄剣 鉄鉢 鉄鏝）
 武具 馬具 農工具（鉄斧） 装身具（金銅製帯金具 銅鈴 銀鈴
 金製垂飾付耳飾 玉璽）

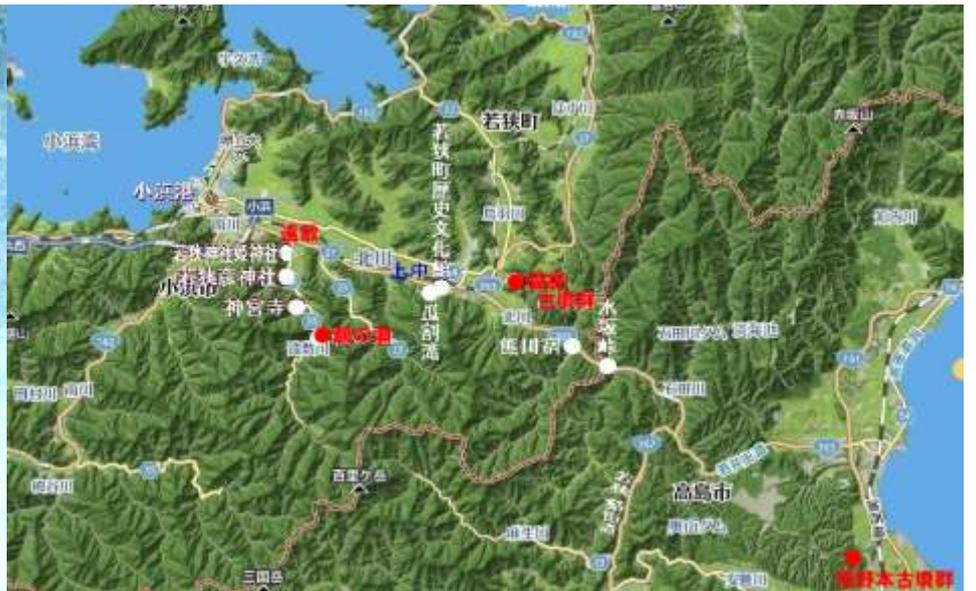
看点は、鉄器副葬ならびに朝鮮半島からの金製垂飾付耳飾







若狭国の王墓 脇袋古墳群が膳部山の山裾に見える脇袋の郷 若狭街道の若狭側の出入口 若狭 上中



古代大和と関係付けられる5世紀の前方後方墳・前方後円墳が点在する脇袋の里

北川の北岸 古代大和の鉄の道をおさえる若狭首長墓 脇袋古墳群



正面に西塚古墳 その背後に 上ノ塚古墳 中塚古墳が見える
西に開け、南には若狭街道・北側が映められる背後を膳部山の山並みに三方を囲まれ狭い平地に
古代若狭街道を納めたこの地の首長たちが眠る
若狭の国造 膳臣（かしわでのおみ）一族の墓といわれる



上ノ塚古墳 5世紀の前方後円墳 若狭地方最大の前方後円墳
全長 約90m 後円部径51m 高さ9m 前方部幅48m 高さ7m



上ノ塚古墳は、若狭における最初の大首長墳で、周濠・基石・埴輪を備え、3段築成である。



西塚古墳 5世紀後半の前方後円墳 古墳 脇袋の郷より 開けた北側を眺める 2008.9.1.



西塚古墳 5世紀後半の前方後円墳

全長74m 後円部径39m 前方部幅47m 横穴式石室を持つ前方後円墳であるが、前方部がほとんど削り取られている

〔主要出土品〕 須恵器 中国製神人画像鏡 仿製四獣鏡 武器（鉄剣 鉄鉢 鉄鏃）
食具 馬具 農工具（鉄斧） 装身具（金銅製帯金具 銅鈴 銀鈴
金製垂飾付耳飾 玉環）

着目は、鉄器副葬ならびに朝鮮半島からの金製垂飾付耳飾





中塚古墳

5世紀の前方後円墳 全長 約60m 高さ6mほどといわれるが形が崩れている

胎袋の集落の家並の中に囲まれていて、家の間を抜けてゆく奥にある。ここも私有地で全網に囲まれていて全体が見えない

若狭と大和の深い関係を示す 若狭 遠敷川(おにゅうがわ)鵜の瀬の水送り 2011.8.30.

鵜の瀬この河原で 神宮寺の「閼伽井」で汲んだ水を 川に注ぎ 奈良 若狭井に送る「水送り」の神事が行われる
この瀬の中央の所に深い穴があり、奈良若狭井に続いているとの伝説



お水送りとお水取り

西暦七一〇年、奈良に平城京が造られ、聖武天皇が在位の七
五二年春に、東大寺において国家を挙げての盛大な大仏開眼供
養が行われました。若狭ゆかりの「良弁僧正」が、その初代別
当（開祖）と言われていきます。

若狭神宮寺に渡ってきたインド僧「実忠」は、その後東大寺
に二月堂を建立し、大仏開眼の二ヶ月前から（旧暦二月）天下
世界の安穩を願い、一四日間の「祈りの行法」を始められまし
た。『修二会』と呼ばれるこの行の初日に、実忠和尚は「神名
帳」を読み上げられ、日本国中の神々を招かれ行の加護と成就
を請われたのですが、若狭の『遠敷明神』だけが漁に夢中になっ
て遅れ、三月一二日、修二会もあと二日で終わるといふ日の夜
中に現れました。遠敷明神はお詫びとして、二月堂のご本尊に
お供えする「閼伽水」（清浄聖水）を献じられる約束をされ神通
力を發揮されると地面をつがわり、白と黒の二羽の鶴が飛び
出て穴から清水が湧き出しました。若狭の根来白石の川淵より
地下を潜って水を導かせたと伝えられます。

この湧水の場所は「若狭井」と名付け
られ、川淵は「鶴の瀬」と呼ばれるよう
になり、古来より若狭と奈良は地下で結
ばれていると信じられてきました。その
若狭井から「閼伽水」を汲み上げ本尊に
お供えする儀式が、大和路に春を告げる
神事「東大寺二月堂のお水取り」であり
その神約を護り伝える行事が若狭小浜の
「お水送り」なのです。



鶴の瀬

鯖街道根来道

江戸から明治にかけて、若狭まで
捕れた魚介類は大急ぎで京都まで
運ばれていた。
その代表的産物が「鯖」。
ひと塩した鯖は、京都に着くころ
になると、丁度食へ頃の味になった
という。今も小浜、京都間に残る
幾筋もの「鯖街道」の誕生である。
ここ根来は、「京は遠ても十八里
（現在でいう約72km）」と親しまれた
針越のルートの一部。
ここから滋賀県朽木村へ抜ける
京の都までの最短ルートであった。



人の駅 良弁和尚

the priest who made great efforts to erect Todaiji
보리이사의 전담에 힘입어 호연스님



良弁和尚は、伝説によれば、680年(持統3)ここ小浜下
根来で生まれましたが、子供の時に難にさらわれ、奈良金
剛寺(東大寺の前身)で育てられました。彼は、東大寺で法
相宗を深淵に学び、新羅の僧善祥を講師に招き華嚴経講を聞いて華嚴宗を広
めました。その後、東大寺の建立に尽力し、初代別当となり、773年(宝龜4)8
4歳で亡くなりました。お水取り行事を始めた実忠は、若狭出身の良弁が師匠
であり、若狭遠敷明神が魚釣りをしていて「修二会行事」の鶴瀬に遅れたお詫
びとして十一面観音にお供えする閼伽水を送ることになったという逸話から
二月堂の井戸を「若狭井」と名付けました。





杉の巨木が立ち並ぶ 人っ子一人いない若狭彦神社の境内

遠敷川・おにゅう 鵜の瀬



遠敷神とは若狭一ノ宮 若狭彦・姫神社に祭られている若狭の開拓神のことで、また、鵜の瀬にある白石神社は若狭一ノ宮 若狭彦・姫神社の元宮と言われる。

「白石」には新羅の転化との説もあり、対岸の水送り神事が行われる河原に若狭彦・姫神社の境外地がある若狭一ノ宮 若狭彦・姫神社の聖地。

また、今回 東大寺を建立した良弁の生誕地であり、しかも、この遠敷にやってきたインド僧実忠が東大寺大仏開眼法要を指導したということも知りました。

この地が遠い昔 1500年前 東アジア交流の真ただ中、多くの文物ばかりでなく、渡来の人も多く往来した国際的な海の玄関口。

大陸・朝鮮半島から大和へつながる交流路「和鉄の道」の重要拠点でいたであつたことを物語る伝承と思われる。



奈良 東大寺二月堂の修二会・お水取り

この法会は、もとは旧暦の2月1日から行われていましたので、二月に修する法会という意味をこめて「修二会」と呼ばれるようになりました。

また二月堂の名もこのことに由来しています。

現在では3月1日より2週間。

行中の3月12日深夜(13日の午前1時半頃)には、「お水取り」といって、若狭井(わかさい)という井戸から観音さまにお供えする「お香水(おこうずい)」を汲み上げる儀式が行われます。

また、この行を勤める練行衆(れんぎょうしゅう)の道明かりとして、夜毎、大きな松明(たいまつ)に火がともされ、参集した人々をわかせます。

このため「修二会」は「お水取り」・「お松明」とも呼ばれるようになりました。



その由来は 福井県小浜市の遠敷川の神水を遠敷明神が二月堂の観音に送水し、この關伽水(あかみず)をくむ行事で、2月堂を開いた実忠和尚の勧請と伝えられている。

「修二会」の法要は、正しくは「十一面悔過(じゅういちめんげか)」といい、十一面観世音菩薩(じゅういちめんかんぜおんぼさつ)を本尊とし、

「天下泰平(てんかたいへい)」「五穀豊穡(ごこくほうじょう)」「万民快樂(ばんみんけらく)」などを願って祈りを捧げ、人々に代わって懺悔(さんげ)の行を勤めるものです。

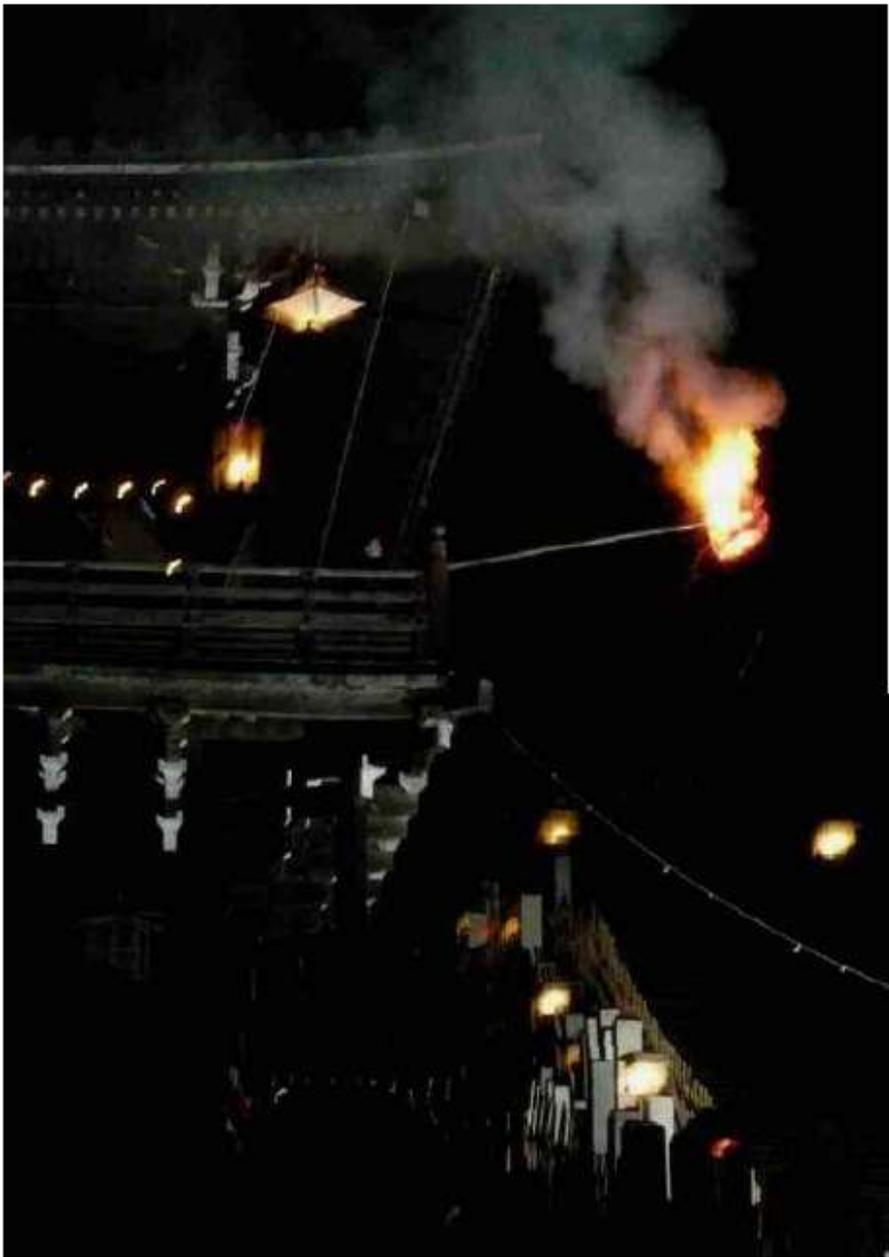
前行、本行をあわせてほぼ1ヶ月、準備期間を加えれば3ヶ月にも及ぶ大きな法要となります。



東大寺 2月堂と閼伽井(あかい)屋・若狭井 2011.11.25.

この閼伽井屋(あかい)は修二会に際し、毎年3月12日(13日午前1時過ぎ)にこの屋内にある緯度より本尊十一面観音菩薩にお供えする御香水を汲む儀式を行うところである
天平勝宝四年(752)実忠和和尚(かしょう)が2月堂で初めて修二会を行い諸神を勧請(かんじょう)した際、若狭国の遠敷明神が献じたものであるところから、若狭井とも呼ばれる

東大寺



2月堂 お水取り・おたいまつ

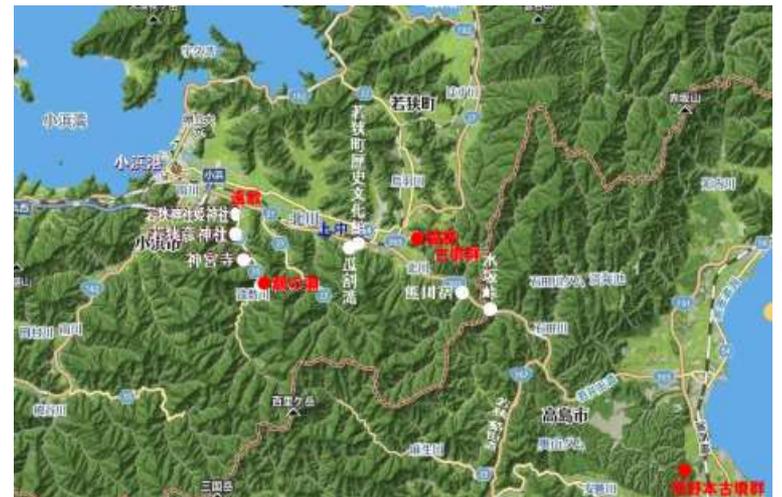


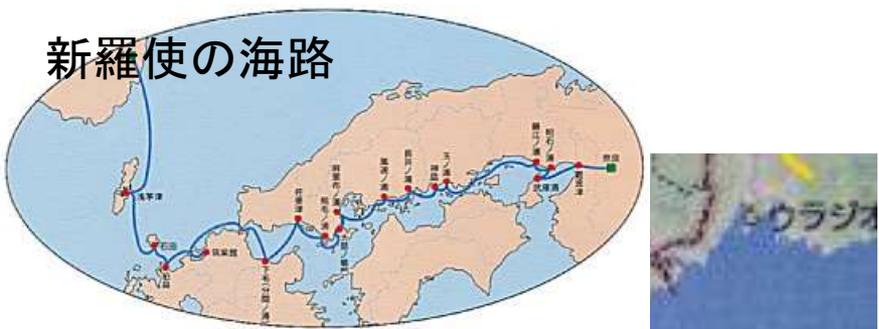
二月堂の背後の山腹にある遠敷神社

遠敷神社は飯道神社、興成神社と共に
二月堂の鎮守である。

大陸・朝鮮半島から大和へと続く東アジアの文物交流路・和鉄の道 その日本海側窓口「若狭」の実像が見えてきた







古代 大陸・半島と日本を結ぶ航路

3. 近江は鉄の国 古代近江で育てられた量産型たたら製鉄

鉄を必要とする拠点での古代製鉄コンビナートのベースを作った

7・8世紀 近江の鉄

近江は古くから鉄鉱石の産地でもあり古代の近畿最大の鉄生産国でもありました。「砂鉄の採れる出雲や吉備、播磨などが先進地だと考えられがちですが、良質の鉄鉱石が採掘できた近江が鉄製産技術を確立し、60ヶ所以上の製鉄遺跡が発見されています。

特に北東の伊吹山・金糞山、湖北のマキノ、西浅井 比良には多くの遺跡があり湖北は重要な鉄の拠点になっていたとおもわれます。

日本で製鉄が始まったのは6世紀の初め頃。

北近江 木之本の古橋製鉄遺跡は 周辺の鉄鉱石を使っていち早く製鉄をはじめています。

もう一つ 近江の鉄でのトピックスというと 琵琶湖の南東岸の瀬田丘陵では7・8世紀にかけて、国家プロジェクトとして、幾つも同じたたたら炉が立ち並ぶ並ぶ量産技術に確立し、量産型の製鉄コンビナートに仕上げました。(野路小野山製鉄遺跡)そして、この製鉄コンビナートをモデルに 鉄を大量に必要とする東北・北九州に古代の大製鉄コンビナートがつくられてゆきました。

これら 製鉄技術の確立には 製鉄技術を持った朝鮮半島の数多くの渡来人がかかわっていたと考えられ、若狭の湊から北近江を通過して 入ってきた渡来人が、近江のたたら製鉄技術を支えたと考えられる。

琵琶湖北東部を勢力圏とした息長氏(おきなが)と、琵琶湖西岸を拠点とし勢力を張った和邇氏 そして安曇川の安曇集団もかかわっていたかもしれません。



近畿で一番古い 北近江 古橋製鉄跡



瀬田丘陵 木瓜原遺跡のイラスト図



野路小野山遺跡

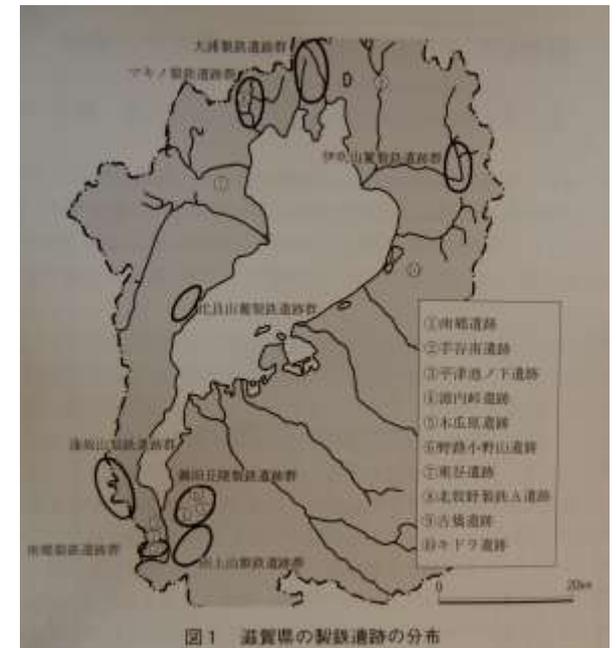


図1 琵琶湖の製鉄遺跡の分布

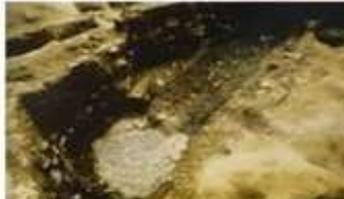




北近江 古橋製鉄遺跡



宇都宮遺跡 鉄滓流出状況



源内峠遺跡 製鉄炉



草津 木瓜原製鉄遺跡



草津 野路小野山製鉄遺跡



滋賀県埋蔵文化センター 製鉄遺物の展示



源内峠 1号製鉄炉炉底滓と木炭



木瓜原遺跡 フィゴ羽口と鍛冶滓



滋賀県各地の遺跡から出土した製鉄・鍛冶関係遺物

古代のたたら製鉄量産炉を完成させた近江瀬田丘陵製鉄遺跡群

古代 中国山地で始まったたたら製鉄を 大型・量産技術に発展させた近江瀬田丘陵のたたら遺跡群



2. 古代 たたら製鉄炉の変遷

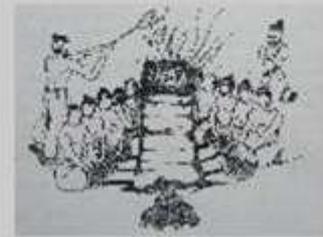


石見 今佐屋山たたら想像図
(6世紀 小型箱型炉)



大槌町小槌の小林家に伝わる「小林家製鉄絵巻」

岩手県大槌町 807年の図ともいわれるたたら



源内峠たたら想像図
(7世紀後半 大型箱型炉)



野路小野山たたら想像図
(8世紀屋根付き大型箱型炉)

中国山地で始まった たたら製鉄 が 7世紀 畿内へ量産炉へと展開

古代たたら製鉄 量産炉への変遷を示す 近江 瀬田丘陵 最古の箱型製鉄炉 源内峠製鉄遺跡 2007. 1. 30.



古代 たたら製鉄 箱型炉の変遷 製鉄開始から大型・量産炉へ

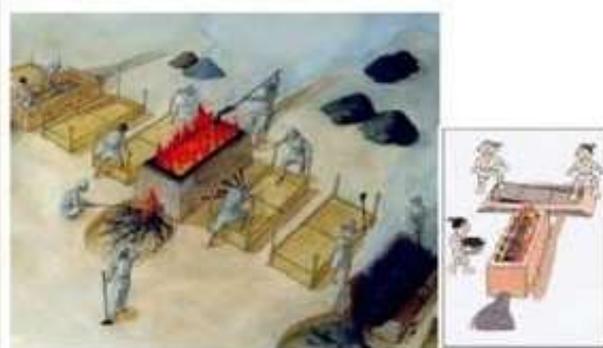
中国山地で6世紀 箱型炉による製鉄ガスタート



近江など畿内では量産・大型炉がはぐくまれる



量産モデル炉による官営製鉄コンビナートへ



石見 今狭山 製鉄遺跡
6世紀後半
45cm*45cm
自然通風・皮吹き

古備 大蔵池南製鉄遺跡
6世紀後半
50~60cm*100~120cm
自然通風・皮吹き

古橋製鉄遺跡の箱型炉
7世紀前半
50cm * 2m
自然通風・皮吹き

源内峠製鉄遺跡の箱型炉
7世紀後半
0.3~0.6m * 2m ~ 2.5m
自然通風・皮吹き

近江 野路小野山製鉄遺跡
8世紀
約1.2m * 約2m
人口送風 踏鞴

陸奥 金沢製鉄遺跡
8世紀
60cm * 2m
人口送風 足踏鞴



石見 今狭山 製鉄遺跡



古備 大蔵池南製鉄遺跡



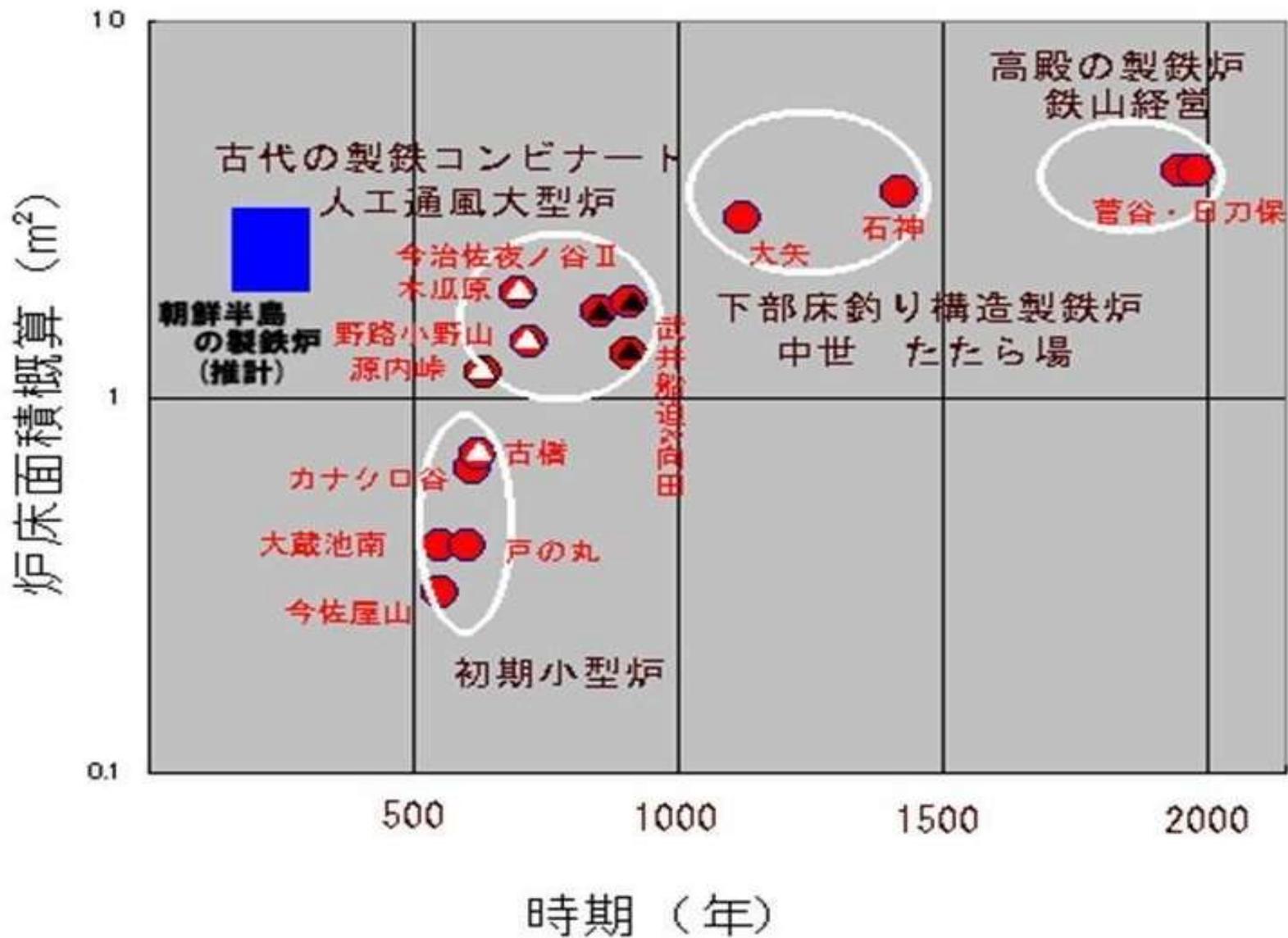
古橋製鉄遺跡の箱型炉



近江 野路小野山製鉄遺跡



たたら製鉄 箱型炉の大きさ変遷 概算



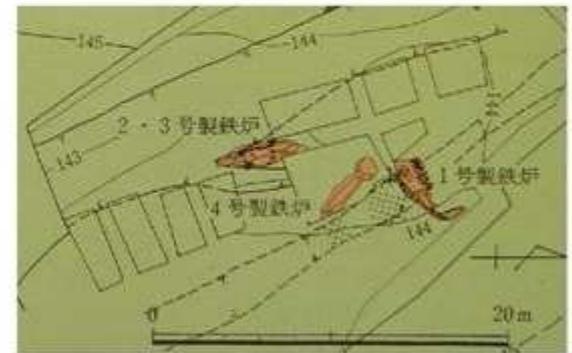
瀬田丘陵 源内峠製鉄遺跡 大津市びわこ文化公園内 大津市瀬田南萱町 2007. 1. 30.



源内峠遺跡のある丘陵尾根筋から 北側琵琶湖・比良を望む



源内峠遺跡のある丘陵尾根筋から 南側源内峠遺跡側を望む



源内峠製鉄遺跡周辺



現在

源内峠製鉄遺跡の古代製鉄炉復元のプロジェクが進んでいる 2007. 1. 30.



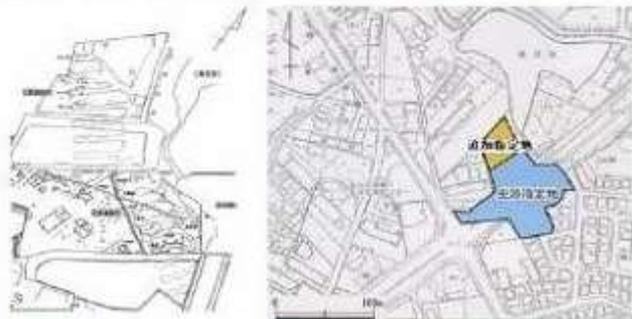
近江 瀬田丘陵 野路小野山製鉄遺跡

■ 7世紀後半から8世紀 大和王権と関係した古代の国家的規模の大製鉄コンビナート

1. 畿内 近江 瀬田丘陵 野路小野山製鉄遺跡・木瓜原製鉄遺跡

1.1. 野路小野山製鉄遺跡

滋賀県草津市 瀬田丘陵 野路小野山製鉄遺跡



従来の大跡指定地の北西側の隣接地で、新たに4基の製鉄炉が見つかった



北山ハイパス、野路小野山インターの建設中にある野路小野山製鉄遺跡

きわめて大規模な製鉄遺跡で伴う国家が大きく関わった大製鉄工場

近江 瀬田丘陵の野路小野山製鉄遺跡



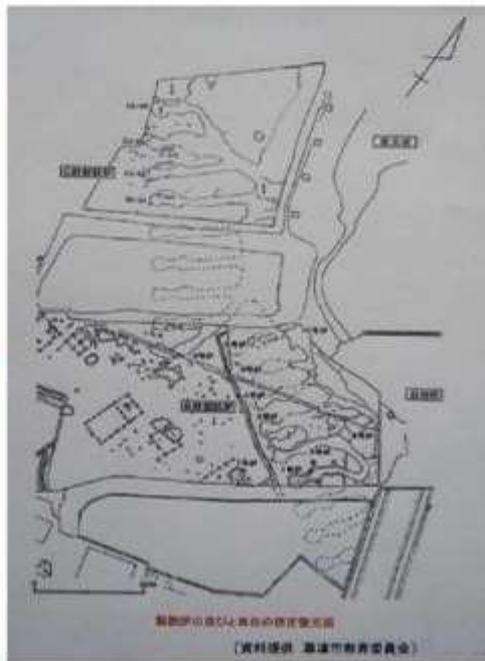
図4 野路小野山遺跡 炉の並びと周辺の製鉄関連施設

国内に例のないきわめて大規模な製鉄遺跡で伴う国家が大きく関わった大製鉄工場であったと推測

- 最新製鉄炉が15基確認されており、うちB群6基、C群4基は整然と並び、B群には周囲を取り囲む溝が存在する、きわめて規格性が高く、組織的で量産化を目指した操業また、C群4基の製鉄炉の北側にもさらに分布していることが判明している。
- 従来の小規模な操業であったA群から、製鉄炉が大幅に整備され、大量生産を確立させたB群・C群へと変遷した。
- 製鉄炉群の南西側に、木炭窯6基、鍛冶炉1基、工房群、管理用建物の製鉄に関連する遺構がまとまって存在している。他の生産遺構が認められず、製鉄専業の遺跡である。
- これまでの調査結果や周辺地形からすると、草津バイパスの南東側にも製鉄炉が連続して並び可能性が高く、炉の総数は二十基を超えるものと予想される。また、製鉄炉群の南西側では柱穴や土坑などが多数検出されていることから、工房群などもさらに隣接地へ広がっていくものと考えられる。

同じ形の製鉄炉が整然と並んで立ち並んでいました 今は国道1号線バイパス道路の下
8世紀 中国山地で始まったたたら製鉄 畿内へ運ばれ大聖化した製鉄炉が整然と並ぶ 古代の官営製鉄コンビナート

滋賀県草津 野路小野山製鉄遺跡 2007.1.30.



6世紀に中国山地で始まった日本古代の製鉄は畿内で大型量産炉へと大きく発展して、それがモデル化され 地方重要拠点で官営製鉄コンビナートが展開される。その経過がみられるのが、古代近江の製鉄遺跡で、野路小野山製鉄遺跡はその完成された製鉄コンビナート。

6世紀・7世紀初頭 琵琶湖北・西岸の鉄鉱石を原料に琵琶湖北古橋製鉄遺跡・湖南南郷製鉄遺跡で始まった近江のたたら製鉄は瀬田丘陵で短期間の間に磨かれ、増大する鉄の需要をカバーするため、大型の量産炉が立ち並ぶ製鉄コンビナートへと変遷する。

大型炉の出現が7世紀後半の源内峠製鉄遺跡。そして 人口送風装置を持つ量産大型炉が立ち並ぶ製鉄コンビナートの形が木瓜原製鉄遺跡・野路小野山製鉄遺跡で完成され、地方拠点の官営大製鉄コンビナートとして 東北・九州北岸・越後・(四国伊予??)などに展開されてゆく。



国道1号京滋バイパス 野路小野山高架橋の下 北東側 2006年新たに出土したC群製鉄炉跡



量産モデル炉による官営製鉄コンビナートへ



炉の大きさ 約1.2m * 約2mの箱型炉

人口送風 踏鞴 両側アレイ型排滓

確認された製鉄炉総数は15基となり、A群の小規模炉をスタートに溝で区画された中に整然と北西から南東側へ横置で並んでいる。(B・C群) また、C群も西側隅に土坑・柱坑が多数はつけんされ、西側に工房があったと考えられる。また 3・4号炉の周辺小土坑から原料と考えられる多量の鉄鉱石が出土している。



国道1号京滋バイパス 野路小野山高架橋の直下に眠る B群 製鉄炉

西

北

東



8世紀 たたら炉が整然と並ぶ古代の官営製鉄コンビナート
滋賀県草津 野路小野山製鉄遺跡 2007.1.30.



11月 平城京 朱雀門のすぐ前から 奈良時代初期8世紀の大きな鍛冶工房が出土した

平城京造営の釘や鉄製の工具を造る鍛冶工房とみられている

この鍛冶工房に鉄素材を提供したのはどこか??

鉄の量産技術を確立した近江がこの鉄素材を供給した可能性は高い

平城京で最大規模の鉄鍛冶工房跡 朱雀門や宮に鉄製品供給か 2011.11.17

朱雀門の直近・南東側の平城京跡左京三条一坊から出土した遺跡。炉の跡や金床石（中央の出っ張った岩）などが見つかることから、工房のような建築物の跡とみられる。

奈良市の平城京跡の朱雀門前で、奈良時代前半（8世紀前半）の鉄鍛冶（かじ）工房跡とみられる3つの建物跡が見つかり、奈良文化財研究所（奈文研）が17日、発表した。平城京エリアでは最大規模の工房群という。

平城宮の正門・朱雀門の周辺は当時の一等地で、奈文研は「平城京の造営期に朱雀門や宮内に鉄製品を供給していた可能性が高く、遷都直後の京の様子を知る貴重な資料」としている。

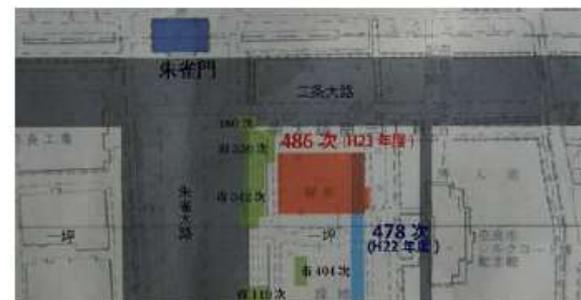
工房群跡は、朱雀門の南東約100メートルで見つかり、今年3月に出土した六角形の大型井戸跡に隣接。周辺から大量の炭を含む、焼け焦げた炉跡が約50基出土した。炉跡は地面を掘った直径30～40センチの円形で、鉄くぎや、鍛冶や金属加工に使う金床石（かなとこいし）や砥石（といし）、製錬などで生じる鉄滓（てっさい）と呼ばれる不純物も確認された。

さらに、工房は早期に埋め戻して整地され、更地は広場として利用された可能性が高いという。また、井戸からは「天平二年」（730年）と書かれた木簡や「右相撲（みぎのすまい）」と記された墨書土器も出土し、井戸は工房が役目を終えた後に掘られたことも判明した。

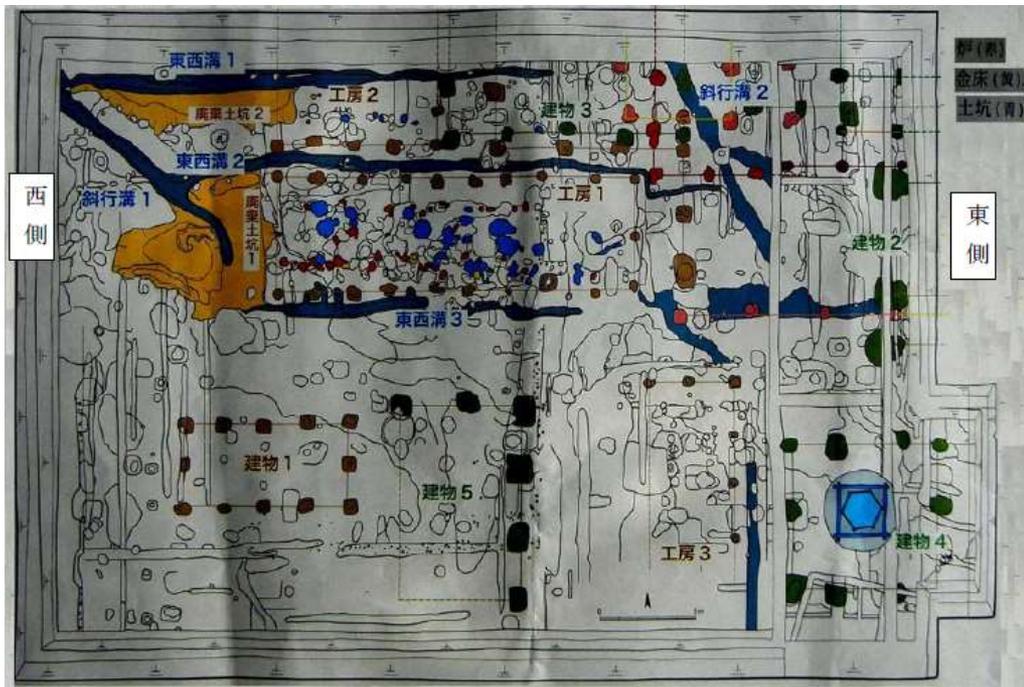
奈良大の酒井龍一教授（考古学）は「資材供給の合理性を考えればこれ以上適した場所はなく、工房自体が公共的なものだったと考えられる」と話している。



朱雀門の直近・南東側の平城京跡左京三条一坊から出土した遺跡。



天
地



奈良時代前半 平城京の一等地 朱雀門前に鍛冶工房跡 - 炉跡 52 基

平城京の大規模な鍛冶工房が朱雀門の直ぐ前から出土した 2011.11.17.



朱雀門の直近・南東側の平城京跡左京三条一坊から出土した平城京の鍛冶工房跡 インターネットより
炉の跡や燧石(中央の出っ張った面)などが見つかったことから、工房のような建築物の跡とみられる



工房跡 出土品



出土した鍛冶炉の一例 (見せてもらった奈良文研写真パネルより)





最大の鍛冶工房跡 工房 1

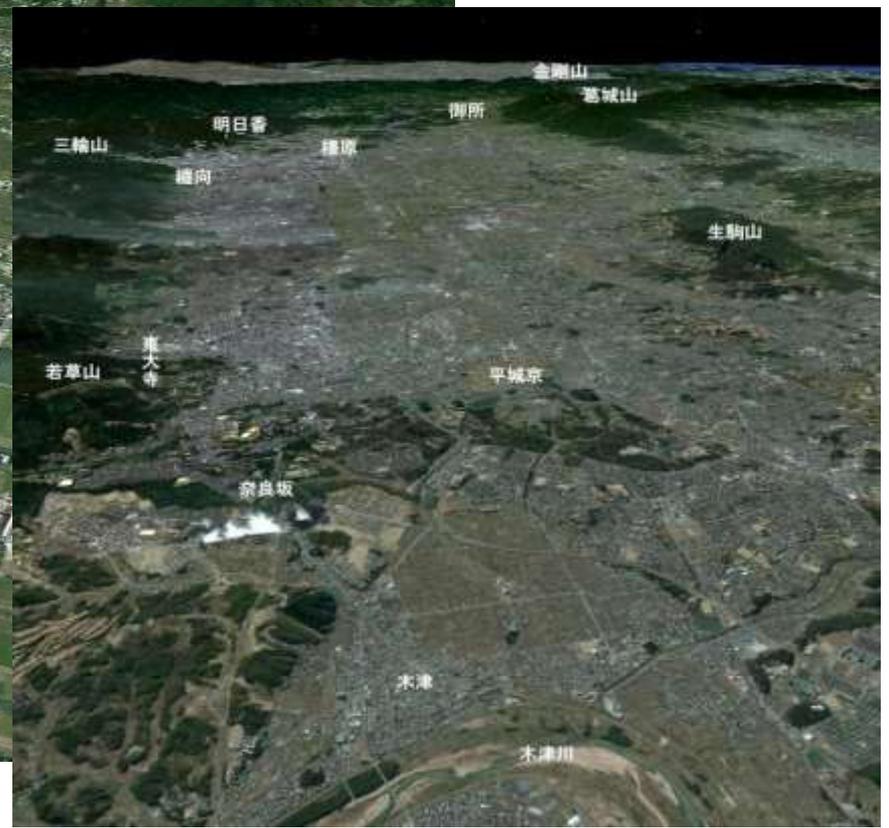
最も大きい掘立て柱建物跡で、東西 19.5メートル、南北6メートル
7基ほどの炉が2列に並び、炉の中で炭を燃やし、ふいごで風を送る構造。

日本黎明期 北部九州の「鉄」に対して 大和の対抗軸は何なのだろうか？

日本の黎明 鉄の北部九州に対抗した 大和の力の源泉はなんだろう

2000枚もの弥生時代初期の大規模な水田跡が大和で出土した

大和が大穀倉地帯であった為か・・・



国内最大級の耕地面積をもつ弥生時代 前期の水田遺構が出土

大和の国力の源泉「大和平野は弥生時代のはやくから 大穀倉地帯だった ???」

奈良・中西遺跡：弥生前期最大の水田跡 2千枚 高い計画性と技術

2011年11月9日 1時31分 インターネット 毎日JP・Asahi.com より整理

奈良県立橿原考古学研究所は11月8日、同県御所市條の中西遺跡で、弥生時代前期（約2400年前）としては国内最大の水田跡（約2万平方メートル）を発見したと発表した。

水田が河川の氾濫による土砂で埋まった後、大規模開発などが行われなかったため地中に残っていたとみられ、橿考研は「当時の水田開発の仕方が非常によく分かる発見」と評価している。

発掘調査は京奈和道のインターチェンジ工事に伴い今年4月から約1万3500平方メートルで行われている。

同遺跡は緩やかな傾斜地。水田跡は約850枚あって、いずれもあぜ道で細かく区切られ、1枚あたり東西4メートル、南北3メートルほどの小さなものが多かった。

水田に水をためるためには、地面を水平にする土木工事が必要で、橿考研

は「1枚あたりの面積が小さいのは、土木工事の労力を抑えるためでは」とみている。今回の調査では、水田跡が約9000平方メートル見つかри、過去の調査で確認された約7000平方メートルに加え、隣接地で継続中の発掘調査でも現時点で約4000平方メートルを検出。合わせると約2万平方メートルになるという。これまで弥生時代前期の大規模な水田跡としては、服部遺跡（滋賀県守山市）が約1万8700平方メートルで最も大きく、次いで池島・福万寺遺跡（大阪府八尾市・東大阪市）の1万8000平方メートルだった。「自然地形に合わせて大規模に水田を造るのは弥生中期や後期のパターンと同じ。前期の段階から大規模な水稻農耕が行われていたことが裏付けられた」という。



弥生時代前期 国内最大の水田跡

奈良県御所市の中西遺跡

「自然地形に合わせて大規模に水田を造る水稻農耕が弥生前期の段階から行われていた」ことの裏付け

大和は早くから 大規模水田が広がる穀倉地帯 ???



見つかった弥生時代前期の水田跡。あぜに沿って白線が引かれている

中西遺跡の水田跡。あぜに沿って白線が引かれている

= 8日、奈良県御所市、朝日新聞社ヘリから、小林裕幸撮影

= 8日、奈良県御所市、中里友紀撮影

Asahi.com 2011年11月9日より



中西遺跡 京奈和道の御所南 IC インターチェンジ工事が進む御所市條周辺

中西遺跡の直ぐ北から縄文の翡翠 秋津遺跡

長大な塀で囲われた4世紀前半の方形区画群・その下層から縄文晩期の翡翠が出土
また、ここを本拠とする葛城氏の中枢をおもわせる方形区画と独立棟持ち柱の建物の遺構が出土
この周辺には縄文時代からずっと 各地との交流路があった開けた肥沃の地

榎考研は2011年8月 御所市の秋津遺跡で確認されていた古墳時代前期（4世紀）の建物のうち8棟が、建物の外に屋根を支える柱のある「独立棟持（むなも）ち柱建物」だったと発表。

独立棟持ち柱建物は「神殿」との見方があり、8棟の場所は塀に囲まれた国内最大規模の区画施設内（最大南北50メートル、東西48メートル以上）であることから、「祭儀を執り行った特別な空間の可能性がある」としている。

榎考研によると、8棟は50～100年の間に建て替えられ、すべてが同時に存在したわけではないが、古墳時代の遺跡で8棟も独立棟持ち柱建物が確認された例はないという。

また、区画施設の南側に竪穴住居20棟が新たに見つかった。
竪穴住居跡と方形区画群の間には幅2メートルの溝があり、榎考研は「居住と祭儀の空間が機能的かつ明確に分けられていた」としている。

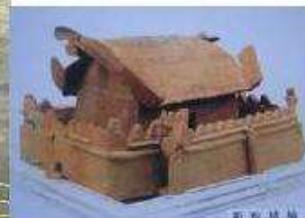
5世紀に大和政権の中枢を担ったとされる古代氏族・葛城氏との関連が指摘されている。
また、古墳時代の遺構が出土した土面の下層から、縄文時代晩期後半（2800～2500年前）の首飾りの一部とみられる糸魚川産と推測される翡翠の管玉（長さ約4センチ、太さ約2センチ）が見つかった。
この地に縄文人が居て、新潟県糸魚川につながる交流路がこの地にあった論拠になるかもしれない。



秋津遺跡で見つかった翡翠の管玉



長大な塀で囲われた4世紀前半の方形区画群遺構が見つかった秋津遺跡



紀元後3世紀前半首長墓の形と分布

『古代国家はこうして生まれた』都出比呂志編
松木武彦「戦い」から「戦争」へ、に掲載された、
松木武彦氏の図を一部改編転載する。



■：前方後円形 ■：前方後方形 ■：四隅突出型

マークの大きさは規模に比例。長径20m以上のものに限定したが、分布上重要なものはその限りではない。



<< まとめ >>

数多くの技術系渡来人・各地の人たちがやってきて、大陸・朝鮮半島との交流
文化・技術を伝え、日本国を作り上げていった
そんな輝く時代が北近江・若狭にありました

- 日本誕生の時代 大和の日本海側玄関口として 大きな役割を演じた北近江・若狭
遠敷の湊と東大寺・渡来人そして脇袋古墳群など大和との強い結びつき
- 熊野本遺跡や若狭にある初期の前方後方墳の存在は 東海とつながりを示す
東国への入口。 渡来人・海族の人たちが技術・文化を各地へ運んだ
- 近江は鉄の国・製鉄技術の先進地として、たたら製鉄技術を高め、各地へ技術移入

古代の北近江 安曇川にも そんな国際感覚の人たちが住み 積
極的な交流を推し進めたのだろう。 その中心に鉄があったかもしれぬと……

近江・若狭を通る和鉄の道が 今後 鉄の謎を解き明かし、また 卑弥呼・日本誕生
の謎を解き明かしてくれるかもしれないと思っています

そんな夢を乗せ、今後も各地を風来坊 Country walk
素晴らしい鉄の景色を訪ねます

2011.12.1. by Mutsu Nakanishi



① 鉄の片
 ② 鉄の片
 ③ 鉄の片
 ④ 鉄の片
 ⑤ 鉄の片
 ⑥ 鉄の片
 ⑦ 鉄の片
 ⑧ 鉄の片
 ⑨ 鉄の片
 ⑩ 鉄の片
 ⑪ 鉄の片
 ⑫ 鉄の片
 ⑬ 鉄の片
 ⑭ 鉄の片
 ⑮ 鉄の片
 ⑯ 鉄の片
 ⑰ 鉄の片
 ⑱ 鉄の片
 ⑲ 鉄の片
 ⑳ 鉄の片
 ㉑ 鉄の片
 ㉒ 鉄の片
 ㉓ 鉄の片
 ㉔ 鉄の片
 ㉕ 鉄の片
 ㉖ 鉄の片
 ㉗ 鉄の片
 ㉘ 鉄の片
 ㉙ 鉄の片
 ㉚ 鉄の片
 ㉛ 鉄の片
 ㉜ 鉄の片
 ㉝ 鉄の片
 ㉞ 鉄の片
 ㉟ 鉄の片
 ㊱ 鉄の片
 ㊲ 鉄の片
 ㊳ 鉄の片
 ㊴ 鉄の片
 ㊵ 鉄の片
 ㊶ 鉄の片
 ㊷ 鉄の片
 ㊸ 鉄の片
 ㊹ 鉄の片
 ㊺ 鉄の片
 ㊻ 鉄の片
 ㊼ 鉄の片
 ㊽ 鉄の片
 ㊾ 鉄の片
 ㊿ 鉄の片

金 銀

① 鑄造の鉄の刺
 長35.8cm/
 大阪府 大竹西遺跡/
 弥生後期初頭



② 近畿最古級の鉄の刺
 長23.0cm/
 兵庫県 有馬遺跡/
 弥生中期



③ 鉄の弁・ヤリガンナ・鉄
 左下・長7.4cm/
 福岡県 吉ヶ浦遺跡/
 弥生中期前半



④ 鉄の塊
 長4.0cm/
 福岡県 小原遺跡
 弥生中期前半